

国立 国会 図書館 月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2017.7/8



第52回貴重書等指定委員会報告 新たな貴重書のご紹介
アルド・マヌーツィオと彼の後継者たち
世界図書館紀行 デンマーク王立図書館

国立 国会 図書館 月報

NO. 675 / 676
JULY / AUGUST 2017

CONTENTS

- 1 『滑稽道外案文』
雷様に暑中見舞を書くには
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 第52回貴重書等指定委員会報告
新たな貴重書の紹介
- 10 アルド・マヌーツイオと
彼の後継者たち
- 20 資料の世界の歩き方 中世の古文書を読んでみよう③
文書の中の文書？
- 24 世界図書館紀行
デンマーク王立図書館

- 19 館内スコープ
書き込み、破損、歓迎します。
- 23 本屋にない本
ハワイ報知百年史
- 30 NDL TOPICS



表紙：
『兵庫百景』から「須磨浦海水浴」
川西英 版画 神戸新聞社 1964年
35cm
<請求記号 733-Ka885h >

『滑稽道外案文』

雷様に暑中見舞を書くには

川本 勉



滑稽道外案文 鼻山人作〔溪斎英泉画〕
玉泉堂 1冊(22丁) 18.0cm×12.0cm
<請求記号 245-147>
*東京本館古典籍資料室所蔵

『滑稽道外案文』は、江戸時代後期、おかしみのある話や言葉のひっかけなどで読者の笑いを誘った滑稽本に属する戯作で、年始状、見舞状、依頼状など40件の案文(例文)をおもしろおかしく紹介したものである。こうした案文は、往来物のような手習い本や節用集、重宝記のような実用書でも頻繁に取り上げられ、人々にとって身近で馴染み深く、それをパロディー化した本書は、江戸庶民を大いに楽しませた。

著者の鼻山人(一七九一・一八五八)は、山東京伝の門人で、狂歌、俳諧を好み、滑稽本、洒落本、人情本、合巻などの分野で著作を残した戯作者で、浮世絵師の溪斎英泉らと親交があり、別号を東里山人といった。麻布三軒家町に住んだ御家人で与力を勤めた。天保の始めに御家人株を譲り、神田和泉町の裏店に移り、戯作稼業に専念するが大成せず零落、晩年は芝切通しで「伝授屋」と称して手品の種本を商っていた。

叙を書いた「松亭のあるじ」とは人情本作家の松亭金水のこと。その



(写真2)「繪目録」一丁裏～二丁表
下段左端に「妖怪へ遣す状」の挿絵が見える。



(写真1)『滑稽道外案文』扉、叙



(写真4)「繪目録」五丁裏～「書札妙智力難文」一丁表
羽織、袴で御挨拶する、顔が筆先の鼻山人が画かれ、「筆のつとめ最しげしその体鈍からぬゆへに動ひて静ならず心のしるべをとどむる…」と筆者の心意気が記されている。



(写真3)「繪目録」二丁裏～三丁表
上段右端に「夏の野菜物の状」の、下段左端に「雷へ暑中見舞文」の挿絵がそれぞれ見える。



(写真6)「書札妙智力難文」四丁裏～五丁表
上段に「化ものへ遣はす状」、下段に「夏野菜物の状」が収載されている。



(写真5)「諸用附會奇妙案文」一丁裏～二丁表
下段に「雷へ暑中見舞状」が収載されている。

序によると、この「戯文」は十辺舎一九の「誦用附會案文」(二八〇四年序)と趣旨はほぼ同じだが、「…更に人意の表に出て、古今此書に比すべきなし、一回巻を披く則是頤を解腹を棒へて、実に絶倒せざるものなし」(写真1)と、わざと格調高い文章で笑いをとりつつ、そのおもしろさを絶賛している。「叙」の後には、機知に富んだ挿絵による「繪目録」(写真2、3、4)が収載されていて、各種案文への興味をそそられる。案文は「書札妙智力難文」(写真4)と「諸用附會奇妙案文」(写真5)に分かれているが、二つの違いは明確ではない。「書札妙智力難文」の冒頭、著者の序文の後には「筆となる萩も枝垂れておのづから砂に文字かく風のまにまに」という洒落た一首が添えられていて、著者の通人ぶりがうかがえる。収載されている案文から、夏向きものを見てみよう。

まずは、今も昔も変わらず恐れられている雷様への暑中見舞状。「甚暑の節、相替らず御電光成され一同恐怖仕り候、光ながら雲切の御怪我過失もなく御鳴り戻りの由、日光の至りに候、右途中御見舞戰慄積の如くに御座候、桑原桑原」(写真5) かわらずの稲光に恐れおののいています、雲の切れ間から落ちてけがなくまたごろつきなさるのは結構のいたり、見舞いがたがた震えるのは積の発作と同じですという。雷様に手紙を書くという発想自体がおもしろい。

次は、夏にはつきものの化けもの(妖怪)へ遣わす書状。「昨夜丑満頃、見越し入道様摸問我話と御刳怯成され周章戰慄申し候、化方の一興悪洒落の至りに御座候、筈根より此地に破家と化物これ無く候処、定て五位鷲杯の仕業と憧惶申し候、急度御禁下されたく化の如くに御座候異形」(写真6) 丑三つ時に化物界の大家、見越し入道(男のろくろ首)やももんががあ(毛深くて大きい老人の妖怪)におびやかされあわてふためいたが、ゴイサギ(夜行性の鳥)などのいたずらと分りあきればたという。語呂合わせや駄洒落だけでできたものもある。13種類の夏野菜を書状仕立てで書き連ねたものを紹介しよう。「冬瓜の節に御座候へ共茄子以芋芋御院元に胡麻成され胡瓜採紫蘇穂に存知蓼交り候、真桑西瓜桃と大角豆申し候、右孟宗申し上げたく竹の子徳に御座候」(写真6)。「茄子以芋芋」は「まずもつていよいよ」「存知蓼交り」は「ぞんじたてまつり」、「竹の子徳に」は「かくの如くに」をもじっていると思われる。よくもまあ夏野菜だけで文章を構成できたものだ。

(1) あごがはずれるほど口をあけて笑うこと。
 (2) 胸や腹に起こる発作性の激痛のこと。
 (3) 当館本は奥付を欠き、英泉が画を担当した旨の記載がどこにも見当たらないが、当館本の異版である東北大学附属図書館所蔵の狩野文庫本の扉には、「楓川市隠狂畫」(楓川市隠は英泉の別号)と、奥付には「溪齋英泉狂画」とあり、また、当館本の改題再版である名古屋大学大学院法學研究所蔵『浮世滑稽附會案文』にも「溪齋英泉狂画」の記載があり、画を担当したのは英泉であることが分かる。

○参考文献
 「東里山人の業績」尾崎久弥 著『江戸軟派研究』3 (13) pp.241～255 1927.7 複製版 柏書房 1981 <請求記号 Z13-2597 >
 「鼻山人」神保五彌 著『為永春水の研究』pp.306～328 白日社 1964 <請求記号 913.54-Ta658Zt >
 「近世法律文書の戯文」神保文夫 著『名古屋大学法政論集』no.255 2014.3 pp.1～35 <請求記号 Z2-177 >
 「契約書式の戯文—徳川時代庶民契約意識一斑」高木侃 著『専修法學論集』(105) 2009.3 pp.1～39 <請求記号 Z2-190 >



詞華和彙集卷第十
新下

本草綱目序

梶原家藏

白碕文庫



第52回貴重書等指定委員会報告

新たな貴重書の紹介

国立国会図書館は、蔵書のうち、特に重要な資料を「貴重書」「準貴重書」と定めています¹⁾。平成29年2月15日、和漢書1点、洋書2点の計3点を貴重書に、和漢書2点を準貴重書に指定し、累計で貴重書は1295点、準貴重書は796点となりました。

(貴重書等指定委員会)



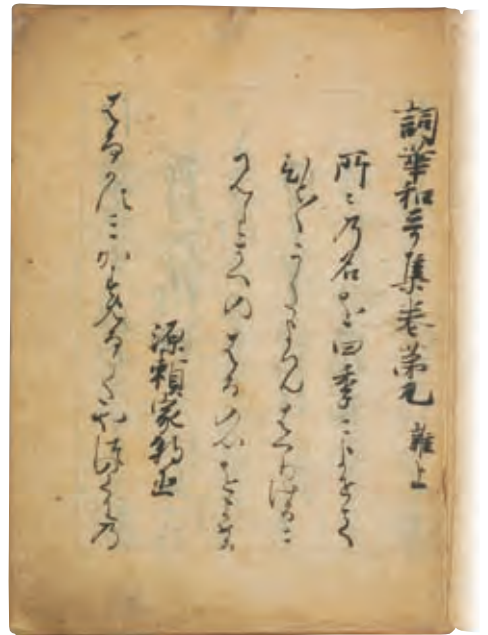
古筆了音
極札(表、裏)



古筆了佐
極札



巻頭(巻10)



巻頭(巻9)



表紙(巻10)



表紙(巻9)

しかわかしゅう 詞華和歌集 巻9-10

<請求記号 WA15-23>

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10303882>

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10303883>

[藤原頼輔][撰] [平安末期-鎌倉初期][写]

2冊 大きさ22.2×15.8cm

伝寂蓮筆 綴葉装 四周淡墨界 界高15.9-16.4cm 每半葉5-7行 歌一首2行書き(巻末歌は3行書き) 淡藍地市松模様緞子表紙 題簽に「詞華和歌集上(下)」とあり 古筆了佐と古筆了音の極札各1枚、大倉好斎の書簡1通を付す 巻10巻末に「慶有丸」と墨書あり 関戸家旧蔵

- 1 「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、館内の貴重書等指定委員会が行っている。
- 2 仁平元年に最初に奏覧された(初度本)が、上皇の指示等により数首を除いて、同年中に再度奏覧された(二度本)。指定資料は削除歌を含まないことから二度本の系統と考えられる。
- 3 卷子本に改装。個人蔵(小松茂美『古筆学大成 第26巻』(講談社,1989) p.634)。
- 4 明治26(1893)年関戸銀行を設立。

貴重書

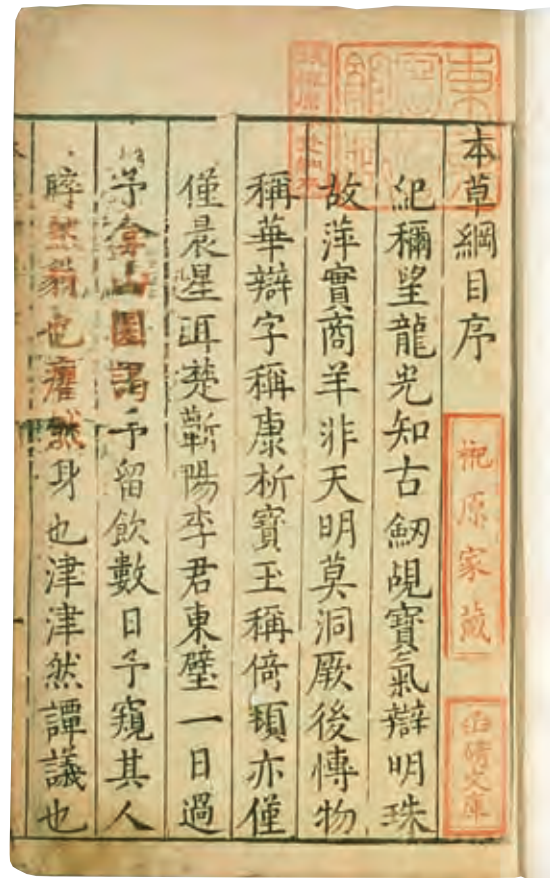
『詞花和歌集』は、平安末期に成立した勅撰和歌集です。天養元(1144)年、崇徳上皇の院宣を受けて、藤原頼輔(1090-1155)が編纂し、仁平元年(1151)年に奏覧されました。^② 本書は、『詞花和歌集』の現存最古と推定される写本で、平安末期から鎌倉初期(12世紀末から13世紀初)の書写と考えられます。寂蓮(?-1202)歌人筆と伝えら

れてきましたが、現在では寂蓮の真筆とは認められていません。四周に薄墨の枠があるのが特徴で、右衛門切『古今和歌集』と類似していることから、右衛門類切と称されることもあります。全10巻のうち、まとまって現存するのは、巻8^③、巻9、巻10の3巻のみで、その他の巻は古筆切が数葉残されているものの散逸しています。指定資料は、このうち巻9、巻

10の2冊で、『詞花和歌集』の「雑部」にあたります。名古屋の富豪、関戸家の旧蔵資料で、古筆了佐(1572-1662)古筆家初代および古筆了音(1674-1725)古筆本家六代の極札(鑑定書なども併せて伝えられています。改装はされていますが欠丁等は無く、『詞花和歌集』の本文研究上、重要なだけでなく、この時代の仮名写本の遺品としても貴重な資料です。



附図巻之上 巻頭



序首



第1冊表紙

李時珍は医業の傍ら本書を著述し、30年近くを費やしました。それまでの、薬物を薬効によって上中下品に分ける三品分類を廃止し、自然物の種類によって分類配列する方法に統一、また、薬学書

「本草綱目」は中国の代表的な本草書で、世界最大級の薬学書です。明代の医師・李時珍（1518-1593）によって著されました。日本には江戸時代初期に渡来後、14回にわたって出版され、日本の本草学にも大きな影響を与えました。その初版本は、出版者が「金陵（現在の南京）後學胡承龍」であることから「金陵本」と称されておられ、指定資料もこの一つです。完本の現存は指定資料も含め世界で7本しか確認されています。

指定資料は幕府医官・田沢仲舒（？-1850）が幕府医学館の館主を代々勤めた多紀家に献呈、のち国学者・榊原芳野（1832-1881）を経て、当館の前身の一つである東京図書館に移りました。

ですが動植物の形態などの博物誌的記述にも優れています。金陵本には2巻の附図があり、李時珍の息子、建元・建中によって作られました。

ほんぞうこうもく 本草綱目 52巻圖2巻

<請求記号 WB21-2> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1287082>

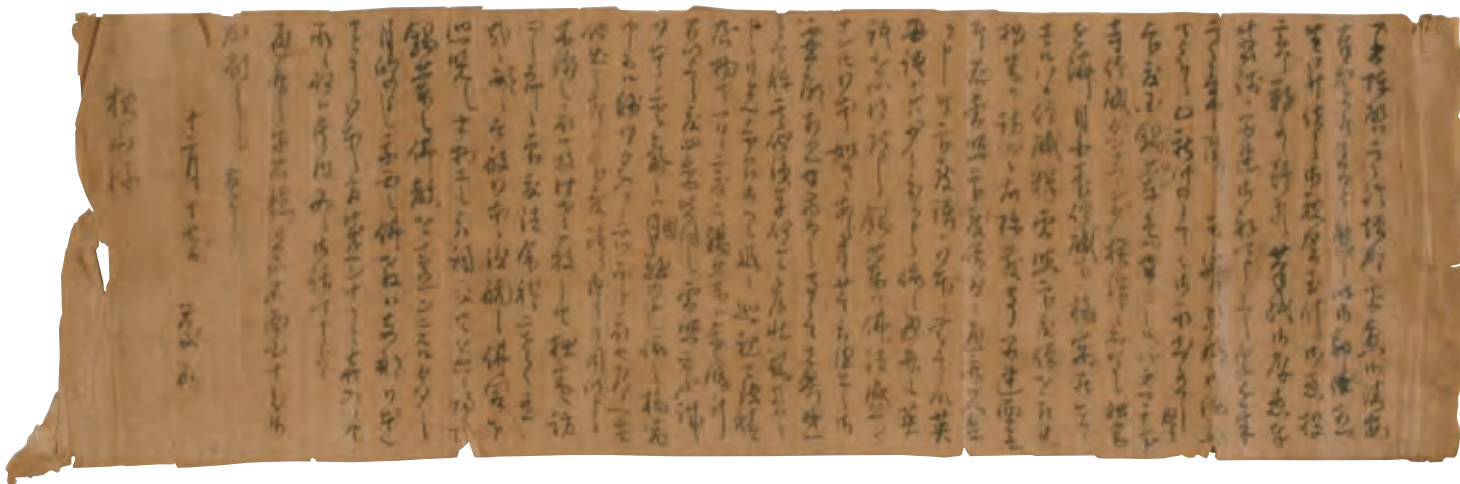
(明)李時珍撰 (明)李建中輯圖 (明)李建元圖

金陵 胡承龍 萬曆18(1590)序

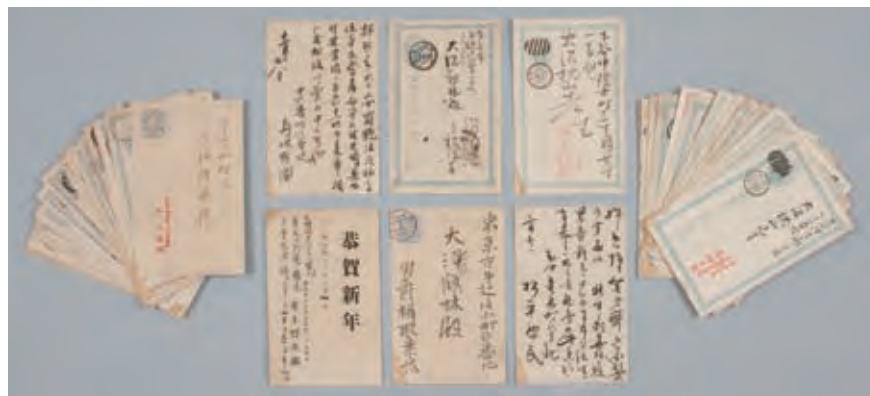
27冊 大きさ25.0×16.0cm

書名は巻頭による 後補の刷り題簽書名:本艸綱目(角書:久壽堂)「輯書姓氏」末に「金陵後學胡承龍梓行」とあり 万曆18年王世貞の序あり 第27冊巻末に天保15年田沢仲舒の識語あり 印記:函碕文庫(田沢仲舒), 榊原家蔵[ほか]

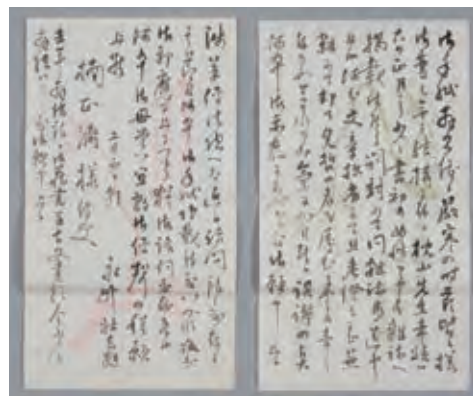




松平春嶽書簡(大沼枕山宛)



葉書(大沼枕山・鶴林宛)



永井荷風書簡(楠莊三郎宛)

幕末・明治期を代表する漢詩人
大沼枕山(1818-1891)と、
その女婿鶴林(1863-1913)
の関係資料で、来簡を中心に
266点から成ります。枕山の玄
孫・鶴林の曾孫にあたる大沼千早
氏からご寄贈いただきました。
約半数を占める枕山宛の書簡に
は、菊池五山、^{すずきしやうとう} 枳梅癡、小野湖山、
鱸松塘、杉浦梅潭、関雪江といっ
た漢詩人はもとより、門人であつ
た松平春嶽(大名、政治家)のもの
も残されています。出版物の贈
与、添削や揮毫、あるいは来訪や
詩集掲載の依頼、潤筆料の支払い
など、詩人と詩社の活動がみと
れます。

詩文稿や門人帳、引札なども含
む本資料からは、漢詩の隆盛期に
生きた枕山、衰退期に活動した鶴
林を通じて、幕末・明治期におけ
る日本漢詩の歴史を垣間見ること
ができます。

ちんざん かくりん
[大沼枕山・鶴林関係資料]



<請求記号 WB32-3>
[江戸後期-昭和前期][写]
266点

大沼枕山、大沼鶴林宛の書簡を中心とする 内訳: 書簡226通、草稿等28枚3冊1綴、人名録3冊、出納簿1冊、引札1枚、封筒(書簡に付属しないもの)3枚
大沼千早氏寄贈



標紙

本書の著者は、イタリアのベルガモ地方カレピオ(村)で生まれ、後にアウグスチノ会修道士となったアンブロシウス・カレピヌスです。古典作品から多くの用例を引用し、ラテン語の規範を示すこの辞書は、古典研究が盛んだったルネッサンス期に大変な人気を博し、初版の刊行(1502年)から16世紀末までに160版を超え、その辞書自体が著者の名をとって

「カレピーノ」と呼ばれるほどでした。こうした中で、本書はアルド・マヌーツィオの息子で、アルド印刷所の後継者として活躍したパオロ・マヌーツィオ(本誌10頁参照)が手掛け、アルド版「カレピーノ」の第2版として出版されました。この後、「カレピーノ」はヨーロッパを中心とした各地で多言語辞書としても発展を遂げ、

1590年、バーゼルでは最多と言われる11か国語(ラテン語、ヘブライ語、フランス語、ギリシヤ語、スペイン語、フランス語、ポルトガル語、イタリア語、ハンガリー語、英語、ドイツ語)版が出版されました。日本の天草で刊行されたキリシタン版『羅葡日辞書』(1595年)は、「カレピーノ」に日本語をあてはめて作られたものであることも知られています。

本文

アンブロシウス・カレピヌス『改訂ラテン語辞典』(1548)

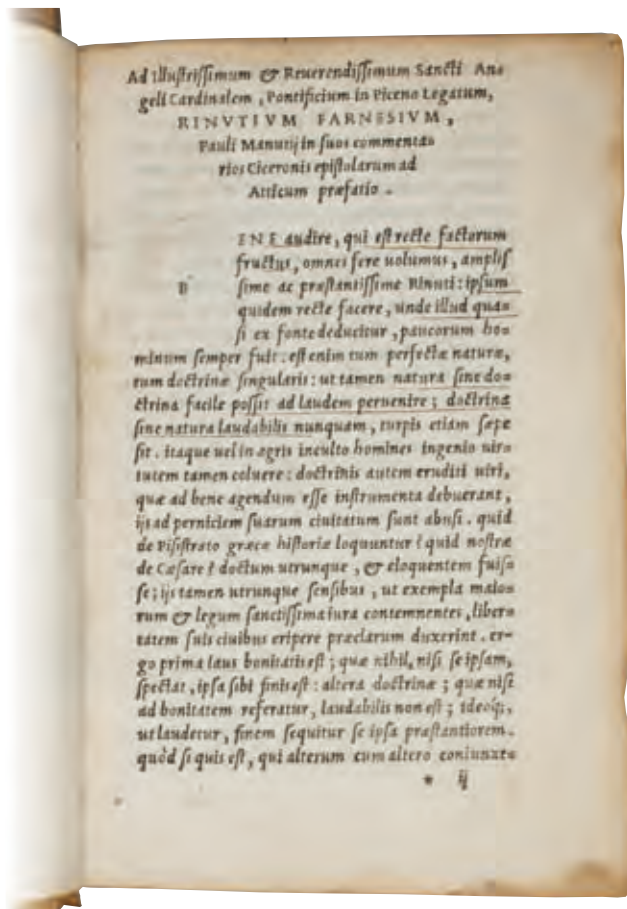


<請求記号 WA44-15>

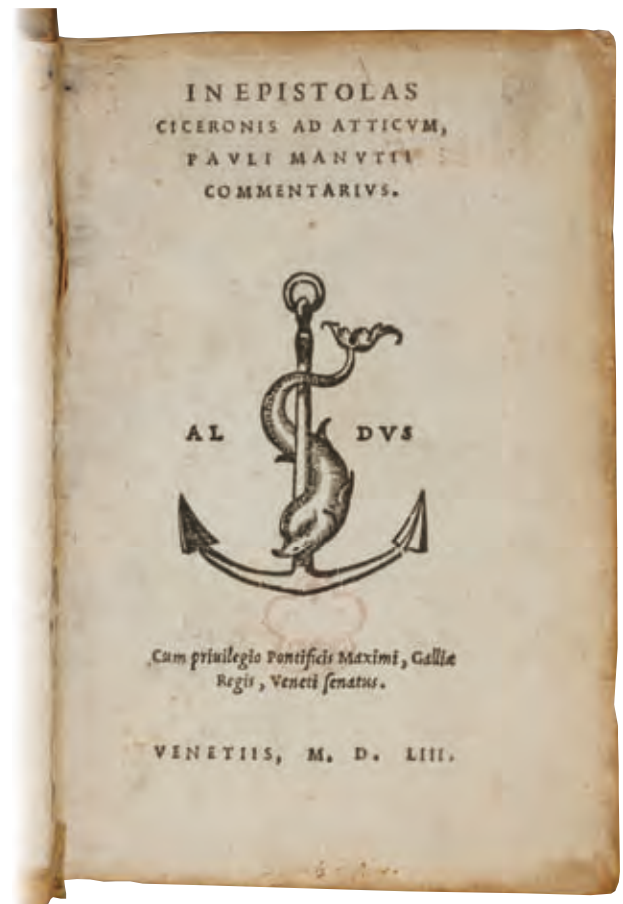
Calepino, Ambrogio, ca. 1435-1511. Ambrosii Calepini Dictionarium: in quo restituendo atque exornando hæc præstitimus. Primum non solum illud curauimus, quod ab omnibus iam solet, ut adderemus quamplurima; sed etiam, quod nemo hactenus fecit, ut multarum dictionum obscuram significationem aperiremus. Deinde, cum exempla quedam Calepinus adduxerit, quæ nunc in libris emendate impressæ aliter leguntur, ea sustulimus, & aptiora repositimus. Præterea, cum totum dictionarium ex multiplici impressione redundaret erroribus, ad eos libros, qui citabantur, crebro recurrimus, ueramque lectionem inde petitam Calepino restituumus, nam in Græcis dictionibus infinita sunt quæ male affecta sanauimus. Venetiis: Apvd Aldi filios, M. D. XL VIII. [1548] 732 unnumbered leaves; 37 cm (folio)

Signatures: a-2^o, aa-yy⁸, zz¹⁰ (zz10 blank), A-Z⁸, AA-XX⁸, YY¹⁰. Library's copy imperfect: leaves HH4 and HH5 are lacking. Anchor and dolphin device on title page and verso of final leaf. Guide letter on verso of title page. Woodcut initials. Printed mainly in italic letter.

5 Labarre, Albert: *Bibliographie du Dictionarium d'Ambrogio Calepino: (1502-1779)*. Koerner, 1975. 同書には1502年から1779年までに刊行された211版の「カレピーノ」が収録される。
6 ラテン語-ラテン語の辞書であるが、同義のギリシヤ語も付された。



パオロ・マヌーツィオによる序文



標題紙

マルクス・トゥッリウス・キケロ（紀元前106-43）は古代ローマ共和政末期の政治家で、雄弁家としても名高い人物です。法廷や政治の場で行った演説のほかに、哲学、修辞学に関する著作を数多く残し、ヨーロッパの政治、思想、文化に大きな影響を及ぼしました。家族や友人・知人に宛てた書簡が約900通現存しており、歴史的にも貴重な史料とされています。本書は友人のアッティクス宛の書簡集に対する注釈書で、前述の「カレピーノ」と同じく16世紀イタリアの印刷業者パオロ・マヌーツィオによるアルド版です（本誌10頁参照）。書簡本文は含まれず、注釈の内容となっています。1547年に最初に出版されており、指定資料はその増訂版にあたります。八折判の判型にイタリック体で印刷された、小型の携帯しやすいサイズの書物です。

貴重書

パオロ・マヌーツィオ『アッティクス宛キケロ書簡集の注釈』（1553）

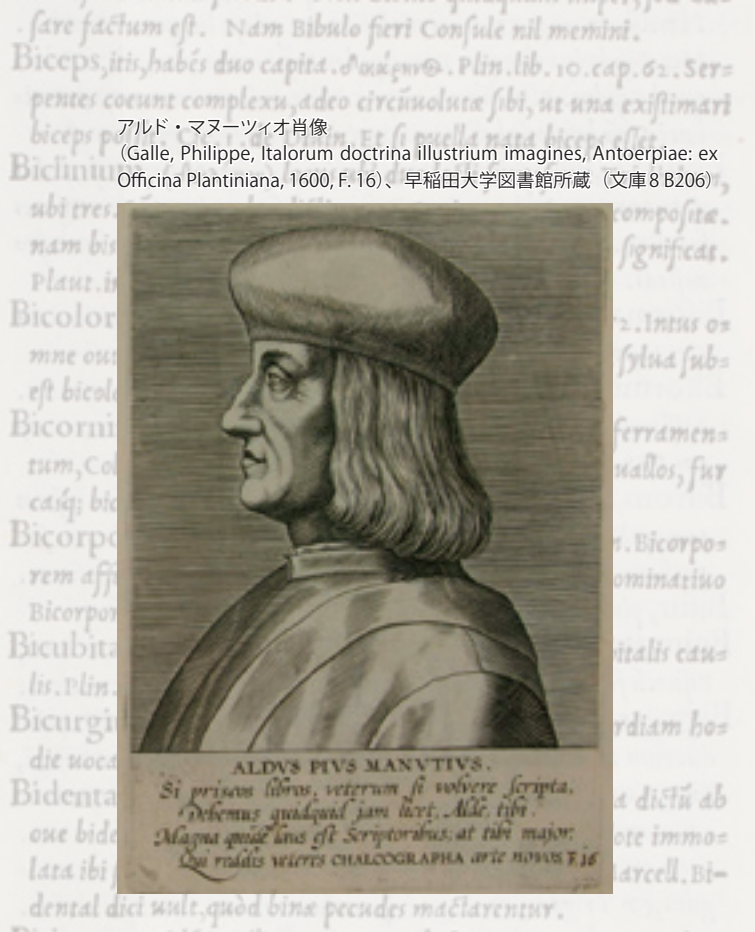
<請求記号 WA42-100>

Manuzio, Paolo, 1512-1574. In Epistolas Ciceronis ad Atticum, / Pavli Manvtii commentarius. Venetiis : [apud Pavlum Manvtium, Aldi filium], M.D.LIII. [1553] 4 unnumbered leaves, 414, that is, 416 leaves ; 16.5cm (8vo)

Numbers 383-384 repeated in foliation. Signatures: *4, A-Z⁸, AA-ZZ⁸, AAA-FFF⁸. Anchor and dolphin device on title page. Publisher from colophon. Guide letters in initial spaces. Printed mainly in italic letter. Commentary without text.

- 7 キケロ宛の書簡を若干含む。
- 8 パオロはアッティクス宛キケロ書簡集の注釈書を1547年、1553年（本書）、1557年、1561年、1568年、1572年に出版している。書簡本文も幾度も刊行しているが、本書はそのうちの1551年版書簡本文に対応して出版された注釈書とみられる。

パオロは非常に優れたキケロの研究者でもあったため、キケロの一連の著作の校訂版を繰り返し出版するとともに、その注釈も自ら手がけて刊行しました。本書は出版文化史上において貴重なだけではなく、16世紀当時の装丁が残っているのも魅力のひとつです（本誌19頁館内スコープ参照）。



新たに貴重書に指定された2点の洋書は、「アルド版」と呼ばれます。ヴェネツィアのアルド印刷所は、イタリック体や、文庫本の元祖というべき八折判の古典シリーズを刊行するなど、印刷史上、大きな足跡を残しました。ここでは、国立国会図書館が所蔵するアルド版を中心に、その歴史的意義について、早稲田大学の雪嶋先生にご寄稿いただきました。

アルド・マヌーツィオと 彼の後継者たち

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 雪嶋 宏一

国立国会図書館は現在12点のアルド版を所蔵しており、いずれも貴重書に指定されている。アルド版とはアルド・マヌーツィオ (Manuzio, Aldo, c.1480-1515) と彼の後継者たちが経営したアルド印刷所により1495年から約百年にわたって刊行されたギリシア・ローマ古典および人文主義者の著作等の千点を超える書物のことである。国立国会図書館所蔵の12点のうち最初に収蔵されたものは昭和48年収集のイソクラテス (Isocrates, 436-338 BC) の雄弁家論集である(後述)。また、6点はアルゼンチンの貿易商、原昇氏の収集に由来する。本稿では、これらのアルド版の紹介を兼ねてアルド・マヌーツィオと彼の後継者である義父アンドレア・トッレザーニ (Torresani, Andrea, 1451-1529)、息子パオロ・マヌーツィオ (Manuzio, Paolo, 1512-74) および孫アルド2世 (Manuzio, Aldo II, 1547-97) の印刷出版活動について述べながら、アルド版の歴史的意義について触れてみた。



ヴェネツィア（筆者撮影）

印刷都市ヴェネツィア

グーテンベルク (Johannes Gensfleisch, Hof zum Gutenberg, c.1400-1468) によって発明された活版印刷術はドイツの印刷職人たちによって1465年までにローマの東約50キロにあるスピアコの修道院にもたらされ、1467年にはローマに印刷所が開設され、1469年にはヴェネツィアで印刷所が稼働した。当時ヴェネツィアはヨーロッパ最大の貿易都市に発展しており、新産業である印刷業はヴェネツィアの豊かな資本とヨーロッパ中に広がる販売網に支えられて大いに発達した。イタリアはもとよりドイツやフランスから多くの印刷職人が集まり、ヴェネツィアは15世紀中にヨーロッパ最大の印刷都市へと成長した。この都市に印刷所を開設した一人がアルド・マヌーツィオである。

アルド・マヌーツィオの生涯と彼の印刷出版活動

アルドはローマの南東約55キロにある小村バッシアーノの出身で、ローマ大学でラテン語と古典学を学び、さらに北イタリアのフェッラーラでギリシア語を修得した後、貴族の子弟に古典語を教える家庭教師になった人文主義者である。人文主義者とはルネサンス時代に盛んになったギリシア・ローマ古典を研究する学者のことである。彼らは古代を理想とする人間中心の世界観を有し、古典の写本を収集して校訂した。アルドはギリシア語を教える際に優れた校訂テキストの不足に悩み、自ら古典テキストを校訂して出版しようと考えて、ヴェネツィアに赴き1494年に印刷所を設立した。

彼の最初の印刷書は同時代のギリシア人学者ラスカリス (Lascaris, Constantinus, 1434-1501) の『ギリシア語文法』(1495)である。そして、哲学者アリストテレス (Aristoteles, 384-322 BC) 著作集 (1495-98) や詩人アリストファネス (Aristophanes, c.448-c.388 BC) 喜劇集等のギリシア語初版を次々と印刷して、ギリシア古典文献の本格

的な出版を行った。さらに、哲学者
 フィチーノ (Ficino, Marsilio, 1433-99) が
 ギリシア語からラテン語に翻訳し
 たイアンブリコス (Iamblichus, ?-325)
 等の新プラトン主義論集(資料1)、
 詩人ウエルギリウス (Vergilius Maro,
 Publius, 70-19 BC) やマルティアリ
 (Martialis, Marcus Valerius, c. AD 40-c.104)
 (資料2) 等のローマ古典、エラスム
 (Erasmus, Desiderius, 1466-1536) 等の
 人文主義者の著作、ダンテとペトラ
 ルカのイタリア古典、古典語の文法
 書と辞典等の編集、校訂を精力的に

行った。自らもラテン語とギリシア
 語の文法書を執筆した。アルドの出
 版物は同時代の人文主義者たちの間
 で大変な好評を博した。
 アルドは1500年頃までにギリ
 シア語を愛好する仲間たちと学問
 サークル「新アカデミー」を設立し
 た。アカデミーの集いではギリシア
 語で会話することが定められ、違反
 者には罰金が科され、罰金がたまる
 とその資金で宴会を催した。また、
 アカデミーの名を冠した書物も刊行
 された。アカデミーの評判はすぐに

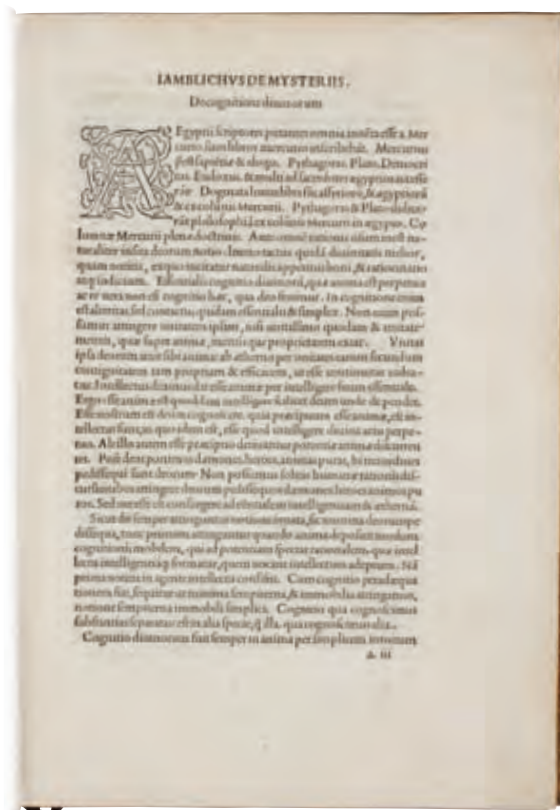
神聖ローマ皇帝にまで達したとい
 う。
 アルドは1505年、印刷業者
 トッレザーニの娘マリア (Torresani,
 Maria, ?-1536) と結婚して、自らの印
 刷所をトッレザーニの印刷所に併合
 して共同経営に乗り出した。彼は、
 途中2回の印刷所の中断を挟みなが
 ら生涯に135版ほどを単独あるいは
 「アルドと義父アーンゾラのアン
 ドレアの家にて」という刊記をつけて
 共同で出版して1515年2月6日
 に亡くなった。

資料1 イアンブリコス『エジプト人、カルデア人、アッシリア人の秘儀』

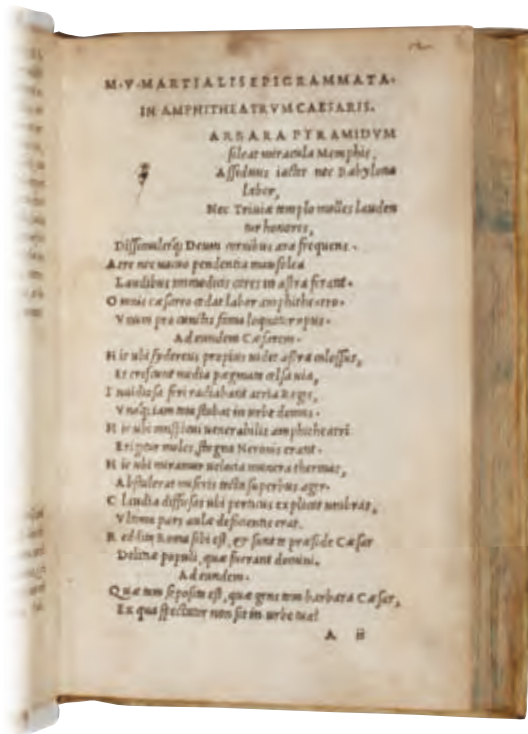
(Iamblichus, *De mysteriis Aegyptiorum, Chaldaeorum, Assyriorum*, 1497)、3葉表、国立国会図書館所蔵 (WA42-41)

資料2 マルティアリ『短詩集』

(Martialis, Marcus Valerius, *Martialis*, 1501)、2葉表、国立国会図書館所蔵 (WA42-42)



資料1



資料2

アルドは1501年から本文活字としてイタリック体活字を採用した。同年には八折判6書にこの活字が使用された。本書はそのうちのひとつ。

アルドの後継者たち…アンドレア・トツレザーニ

アルド亡き後、印刷所はトツレザーニに引き継がれた。彼は息子のジャン・フランチェスコ (Tommaso, Gian Francesco, c.1498-1558) の協力を得て、アルドの出版計画に沿って悲劇作家アイスキュロス (Aeschylus, c.525-c.456 BC) 等のギリシア古典を印刷すると同時に、生前にアルドが刊行した本を重版し、さらに16世紀の人文主義者の著作も手掛けた。トツ

レザーニはこの時代にも「アルドと義父アーゾラのアンドレアの家にて」の刊記を付けて出版を続けた資料³。一方、フランスの財務官グ

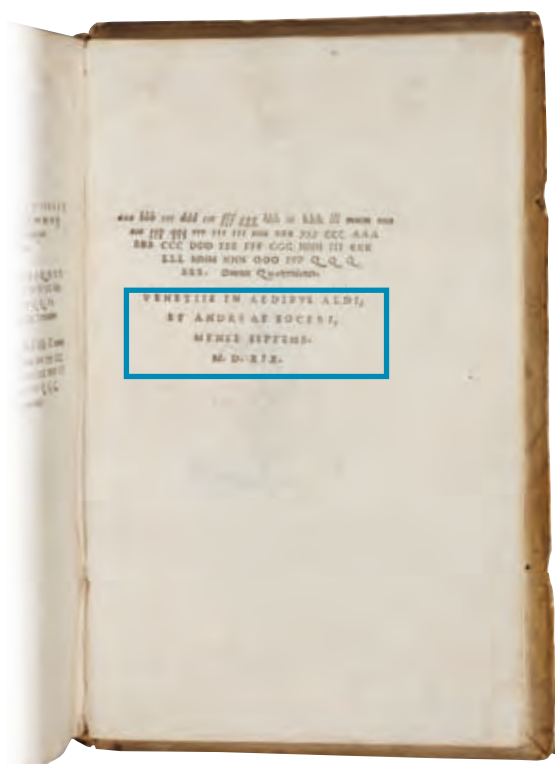
ロリエ Grolier, Jean, 1479-1565) はアルド印刷所に出資した。グロリエはアルド版を大量に収集した最初の愛書家で、華麗な装丁を施したコレクションを仲間たちの利用にも供した。

パオロ・マヌーツイオ

トツレザーニ没後、マヌーツイオ

家とトツレザーニ家との間で遺産相続争いが生じ、印刷所は1529年に三度目の中断に至った。印刷所を

1533年に再開したのはアルドの三男のパオロであった。彼はアルドの衣鉢を継いで、哲学者キケロ (Cicero, Marcus Tullius, 106-43 BC)、詩人オウィディウス (Ovidius Naso, Publius, 43 BC-17 AD) 等のローマ古典、雄弁家イソクラテス (Isocrates, 436-338 BC) 等のギリシア古典を印刷した。パオロは自分の名前を示さずに「アルドと義父アーゾラのアンドレアの後継



資料3

奥付に“in aedibus Aldi, et Andreae soceri” (アルドと義父アンドレアの家にて) という刊記がある。



パオロ・マヌーツイオの肖像

(Galle, Philippe, *Italarum doctrina illustrium imagines*, Antwerp: ex Officina Plantiniana, 1600, F. 17). 早稲田大学図書館所蔵 (文庫8 B206)

資料3 ポンターノ『全集第3巻』

(Pontano, Giovanni Gioviano, *Centum Ptolemaei sententiae ad Syrum fratrem a Pontano e graeco in latinum tralatae atque expositae. ...*, 1519), 320葉表、国立国会図書館所蔵 (WA42-30)

者の家にて」という刊記を付けて刊行した(資料4)。遺産相継争いが最終的に解決した1540年からローマに赴く1561年までがパオロの最盛期である。彼の刊行書の6割がこの間に集中している。パオロが最も力を注いで編集・刊行したのがキケロの作品と注釈であった。彼は生涯に52版のキケロの作品を刊行しているが、そのうち1561年までの刊行が32版あり、自身による注釈書も6版上梓している(資料5)。彼に

とってキケロ作品の注釈はライフワークであった。1558年に外交官フェデリコ・バドエル(Bader, Federico, 1519-93)がヴェネツィアの貴顕と学者の集いである「ヴェネツィア・アカデミー」を設立した。詩人ベルナルド・タッソ(Tasso, Bernardo, 1493-1569)が書記を、パオロが出版物の印刷を担当した。それら本の刊記には「Academia Veneta」と印刷されるのみで(資料6)、パオロの名前はないが、アル

ド版とみなされている。パオロは教皇庁からの招聘に応じ、1561年にローマに赴き、教皇庁の印刷事業を担った。そこで彼はカトリック神学書、トリエント公会議の決定集と禁書目録等を印刷した。ローマの印刷所の商標には「S.P.Q.R.(ローマ人民の印刷所)」の楯とその下にアルド印刷所の商標である「錨とイルカ」(後述)を掲げ(資料7)、「パオロ・マヌーツィオのもと、ローマ人民の家にて」と記述し

資料4 イソクラテス『雄弁家論集』

(Isocrates, *Isocrates nuper accurate recognitus, et auctus*, 1534)、奥付(115葉裏)、国立国会図書館所蔵(WA42-7)

資料5 パオロ・マヌーツィオ『アッティクス宛キケロ書簡集の注釈』

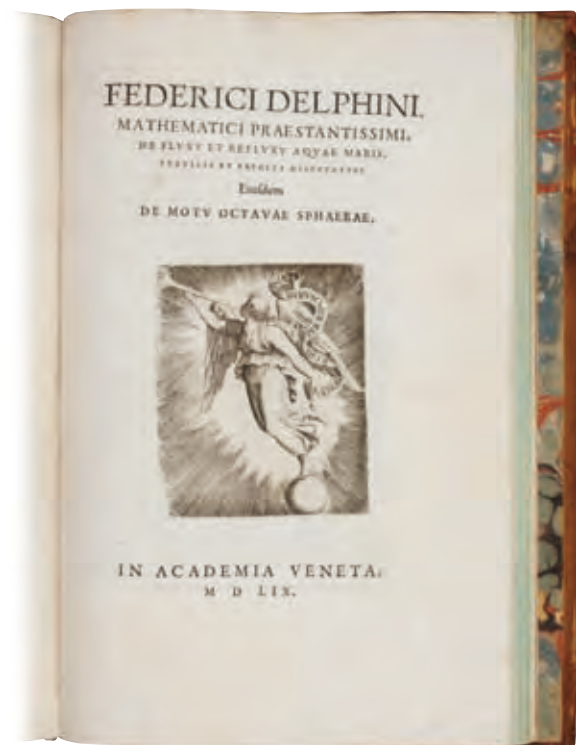
(Manuzio, Paolo, *In epistolas Ciceronis ad Atticum, Pauli Manutii commentarius*, 1553)、標題紙(1葉表)、国立国会図書館所蔵(WA42-100)(本誌p.7参照)



資料4 奥付に“in aedibus haeredum Aldi Manutii, & Andreae Afulani”(アルド・マヌーツィオとアーゾラのアンドレアの後継者の家にて)という刊記がある。



資料5



資料6
 標題紙に“*In Academia Veneta*”（ヴェネツィア・アカデミーにて）という刊記があるが、パオロの名前は見られない。



資料7
 標題紙にS.P.Q.R.と記された楯とその下に「錨とイルカ」の商標がある。

た。彼は同時にヴェネツィアの印刷所の経営も継続して、ローマ古典や人文主義者の著作を主に出版した。ところが、パオロはローマの印刷所の管理に関して教皇庁と決裂して1569年にヴェネツィアに帰還した。この間の1571年に神聖ローマ皇帝マクシミリアン2世(Maximilian II, 在位1564-76)から爵位を授けられた。しかし、パオロは教皇庁に呼び戻されてローマに再度赴き、望郷の念を抱きながら1574年4月6日

にローマで客死した。

アルド2世

パオロの長子アルド2世は早熟の天才で、9歳の時に『トスカーナ語とラテン語の優雅さについて』、14歳でラテン語の『正書法』を父の印刷所から上梓した。20歳になる頃には父の代理でヴェネツィアの印刷所を経営して、印刷書の刊記に自身の名前を記載した。父亡き後で印刷

所を相続したが、まもなくヴェネツィア総督書記局で文書の起草を任された。その後、印刷所を片腕のマナツシ(Manassi, Nicola)に任せてボローニャ大学教授に就任し、ボローニャでも印刷を行った。そして、1588年にローマ大学教授に転任し、1595年には父と同様に教皇庁に仕えたが、1597年10月28日にローマで客死して、100年に及ぶ印刷所は終焉した。

資料6 デルフィーニ『海水の流れと逆流について、洗練された博学なる議論』

(Delphini, Federico, *Federici Delphini, Mathematici praestantissimi, De fluxu et refluxu aquae maris, subtilis et erudita disputatio*, 1559)、1葉表、国立国会図書館所蔵 (WA42-83)

資料7 『トリエント公会議教理問答集』

(*Catechismus ex decreto Concilii Tridentini*, Romae, 1566)、1葉表、国立国会図書館所蔵 (WA42-45)

アルドの遺産

アルドは20年間の印刷出版活動で書物文化史上に偉大な足跡を残した。

読みやすい活字の制作

アルドは活字制作をヴェネツィアで活躍した活字職人グリッフォ(Griho, Francesco, ?-1518)に依頼していた。グリッフォはアルドの手書きギリシア文字を見本にしてギリシア語の表記が自由にできて読みやすいギリシア語活字を制作した。ギリシア語はアクセントの有無などさまざまな記号をもちいるが、従来のギリシア語活字では正確に表記できず、美しくもなかったのである。読みやすい活字が制作されたからこそ、ギリシア語文献の普及が可能になったといえよう。16世紀中葉にフランスのギャラモン(Garamont, Claude, 1499-1561)によってこの活字のデザインが改良され、さらに18世紀中葉まで使用され続けた。

イタリック体の発明と文庫本の元祖

また、彼はいわゆるイタリック体活字を初めて制作した。この活字は、携帯に便利な八折判(Octavo)を採用したラテン語の古典シリーズの印刷に活躍した。八折判とは全紙の長辺を半折し、それをまた長辺で半折し、さらに半折してできる縦長の判型であり、基本的に8葉16ページの折丁からなる。彼はこの八折判を「携帯できるポケット判」と呼んで販売した。彼の八折判古典シリーズは各地で模倣されて古典の普及に大きな役割を果たした。今日の文庫本の元祖である。そして、イタリック体活字も各地で広く使用され、フランスのグランジョン(Granjon, Robert, 1513-89)等によって改良が加えられた。さらに、ローマン体活字とセットにして一般に普及して、今日に及んでいる。

早期のブランド戦略

アルドは1502年から商標として「錨とイルカ」を採用して、印刷書の巻末や巻頭に印刷した。「錨と

イルカ」はローマ皇帝ティトゥス(Titus, 在位54)が発行した銀貨に刻印された図を基にしたもので、「ゆっくりと急げ」という寓意を含む。リヨンで作られるアルド版の海賊版に対抗してこの商標を明示することで自社のブランド化を図った。早期のブランド戦略といえよう。「錨とイルカ」は後の出版業者によって優れた出版者を意味するマークとみなされた。20世紀末に、コンピュータ上でページレイアウトを行うソフトウェア「ページ・メーカー」で有名なアルダス社がアルドの名前のラテン語形Aldus(英語では「アルダス」と発音)を社名としてアルドの横顔を商標にしたこともアルド・ブランドにあやかったものであった。

アルド印刷所に9か月滞在したエラスムスは主著『格言集』の中で「アルドの偉業」を称え、英国のトマス・モア(More, Thomas, 1478-1535)は代表作『ユートピア』の中で優れた本としてアルド版のギリシア語書を列挙した。同時代にこのように高く評価

左ページ:

(上) ギリシャ語の活字 (資料4より)

(左下) イタリック体活字が印刷された八折判。なお、国立国会図書館所蔵本のページの寸法は縦15.1cm×横10cm (資料5より)

(右下) 国立国会図書館所蔵本の中で最も古い「錨とイルカ」の商標 (資料3より)

ἐπεὶ ὅπου μὴδὲ τῶν ἀλλήλων προβαλεῖν ὄ-
κνησεν οὐτω. πλάτων γὰρ ὁ κωμωδοποιὸς
ἐν δράματι Θωλαῖς. κῆρ ὅπου πον ποιη-
τῶν βακχυλίδην, εἰς τὸν ὄνομα κατέταξε τῆν
Θωλαῶν. στωλαῖ δὲ πάντες, ὅσοι πεπομίδου
μαίσι κατὰ χρηστικῶς ἢ ἀριστοφάνης, ἐπὶ πᾶ-
σης τέχνης ἔλαβε ἢ τῆν στωλαῶν ὄνομα. σ-
τωλαῖς ἔστιν, ὁ δὴ ἀμνος ἀπὸ φαινομένης στω-
λασ χρηματίζεισθαι. κῆρ ζῆτει ἐ τῶ δὴ ἀμνος.
παρὰ τῶ σουίδια.

συγγραφεὺς, ἰσοκράτης ἀρεσπογιτικῶ. ἐπι-
σμάσαν ἡ παρ' ἀθλωαίσι, ὁπότε δέοι πλῆθος
τι ἀρεῖσθαι, ὡς περ εἰς ῥητῶν ἡμῶν εἰσέφερε
γνώμασ εἰς ἦν δῆμον. ἔστι δὲ καὶ πρὸ τ' κα-
ταστάσεως τῆν νῦν ἐγένετο κατὰ θουκυδίδης
ἐ τῆ ὀγδοῆ φησίν. ἐ δὲ τούτω τῶ καιρῶ οἱ π
ἦν πείθεσθον ἐλθόντες οὐθὺς τῆν λοιπῶν
εἶχοντο. καὶ πρῶτον μὲν ἦν δῆμον συλλέξαν-
τες εἶπον γνώμῳ, δέοι ἀσφρας ἐλέσθαι συγ-
γραφέας αὐτοκράτορας. τούτους δὲ συγγρα-
φάντας γνώμῳ ἔξωγεγκέν εἰς ἦν δῆμον ἐς
ἡμῶν ῥητῶν, κατὰ τὸ ἀριστὰ ἢ πόλις οἰκίσε.]
ἦσαν δὲ οἱ μὲν πάντες συγγραφεὺς τελέκοντα
οἱ τότε ἀρεσθῶτες, κατὰ φησιν ἀσφροτίων τε,
καὶ φιλόλορος ἐκείτδος ἐ τῆ αἰ. τίδι. ὁ δὲ

λαθραπέιασ τῶν δόπων. τῶ μὲν γὰρ πολέ-
μῳ καὶ τοῖς ἔσπλοις, αὐτῶν μόνων ἐγένετο, κῆρ
κύριος κατέστη τῆν αἰτιταξιακῶν. τῆ δὲ ὀ-
γνωμοσιῆ, καὶ μερίότητι πάντας ἀθλωαί-
ους, ἅμα κῆρ πλῶ πόλιν αὐτῶν ἔχον ὑποχείριον,
ἐκ ἐπιμερῶν ἦν θυμὸν τοῖς πρᾶττομῶσι, ἀλ-
λὰ μέχρι τούτου πολέμων κῆρ νικῶν, ἔως τῶ
λαβεῖν ἀφορμὰς πρὸς ἀπόλειξιν τῆς αὐτῆ
πρᾶότητος κῆρ καλοκαθίασ. τοιγοραῶν χω-
εἰς λυβῶν ἀποσείλασ τῶν ἀρχικαλώτους. καὶ
τῶ αἰτιπαρῶ τῆν ἀθλωαίων τῶν τετελευτη-
κῆρ τας θάλα κελύβας, ἐπὶ δὲ καὶ σιωθῆναι
τὰ τούτων ὅσα. κῆρ τῆν ἀποματτομῶν τῶν
πλείστους ἀμωλέσας δὲ τῶ ἀγγίσιαν μεγί-
στην πρᾶξιν ἀπειργάστω. ἢ ἂ ἀθλωαίων φρέ-
νημα κατὰ πλεξάμνος τῆ μεγαλοφυχία,
πρὸς πᾶν ἐτοίμους αὐτῶν ἔχον σιωατωνισαῖς
αἰτι πολέμων. ὀλιτωπος, ὁ μακεδῶν. πολ-
λους τῶ ζῆν ἀπεσθῆσε. καὶ τῶν ἡέμασ ὕσθρον
σιωέλαβεν ἐπιφθεγξάμνος ἦν σίχρον ἔσθρον.
* ἡπίος, ὅς πατῶρα κτείνας, ἡγῆσ ἀπολείπει-
παρὰ τῶ σουίδια.

Φιλοσοφῆν αἰτι τῶ πονεῖσθαι φάσκον. ἰσοκρά-
της πρὸ τῆς εἰρήνης, καὶ μῆ ἀσφρος θρασυ-
λέοντι. φιλοσοφῆ δὲ ἔστι. ὁπῶς κατὰ πρᾶ-

IN PRIMUM LIBRUM EPISTOLA-
RUM CICERONIS AD ATTICUM,
PAULI MANUTII
COMMENTARIUS.

EX EPISTOLA I. pagina I.

Emotionis nostrae,] Peti Consulatum a Cicero, uideo esse qui credant: imperite: non enim petit, sed pensat, an no ante, quam petat: idq; ex consuetudine, quod, quid de quaque tribu sperandum, aut timendum esset, tanto ante scire non alienum uidebatur. nam etsi non tributis, sed centuriatis comitijs Consulatus daretur: cum tamen ex omnibus tribubus essent centurie; (erant enim classium partes; et classes ipse ex uniuerso populo) pensare tributis comitijs, et cuiusque tribus animum tentare, non inutile putabant. itaque et in oratione pro Milone, cum de consularibus comitijs, idest centuriatis loquitur, Conuocabat, inquit de Clodio, tribus: se interponebat. Aut, maiores magistratus binis comitijs, tributis primum, deinde centuriatis esse mandatos, intellige. quod Pedianus in commentario 11. Verrinae, Cicero ipse in 11. agraria, et in oratione pro Plancio declarat. qua de re pluribus uerbis agemus in libro de comitijs. Vnus P. Galba] Non, unus sine fuco, ac fallacijs; sed, unus ex competitoribus: ideoq; ne coire eum in sequentibus posset, interposui quam gram



されたアルドの活動を受け継いだ後継者たちは、古典や人文主義者の著作等の学術書を刊行する学術出版社を築き上げて、後世の学問に大きな影響を与えた。

アルド版の収集と図書館

アルド版の収集は前述のようにフランスのグロリエから始まり、ギリシア語文献を欲してトッレザーニ家の蔵書を買った国王フランソワ1世 (François I, 在位1515-47) が続き (フランス国立図書館に現存)、大法官メーム (Mémes, Henri de, 1532-96) にその情熱が受け継がれ、18世紀の枢機卿ロメニー・ド・ブリエンヌ (Loménie de Brienne, Étienne-Charles de, 1727-94) の蔵書を潤した。さらに、19世紀の書誌学者ルヌアール (Renouard, Antoine-Augustin, 1765-1853) が注意深く収集して浩瀚なアルド版書誌を上梓した。イタリアではヴァチカン教皇庁図書館がアルド2世の蔵書を早期に収集した。その後、ヴェネツィアのマルチアーナ図書館、フィレンツェの

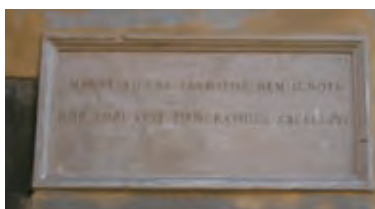
国立中央図書館とメデイチェア・ラウレンツィアーナ図書館、ミラノのアンブロジーアーナ図書館でも個人が収集したアルド版コレクションが収蔵された。また、ベルリン国立図書館、マンチェスター大学ジョン・ライランズ図書館等にも個人に由来する大規模なコレクションが所蔵されている。20世紀以降はカリフォルニア大学やテキサス大学等のアメリカの図書館が積極的に収集している。国立国会図書館所蔵のアルド版にも英国の著名な蔵書家第2代ポウイス卿 (Edward Herbert, 2nd Earl of Powis, 1785-1848) の旧蔵本が3点含まれている。いずれも原昇氏収集本である。このように欧米で蔵書家がアルド版を収集した動機は、グロリエ以来の愛書家の必須アイテムであったことであるが、それらが国立図書館や大学図書館等の研究図書館に収蔵された理由は、アルド版が蔵書の核となり、学問の基礎であると認識されているからであろう。



雪嶋宏一

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

早稲田大学第一文学部東洋史専攻を卒業後、早稲田大学図書館勤務。2008年度教育・総合科学学術院に転属、准教授。2013年度より現職。専門分野は西洋書誌学、図書館情報学。著書に、『*Incunabula in Japanese Libraries* (雄松堂出版)、『西洋古版本の手ほどき 基礎編』(明治大学リバティアカデミー)、『雪嶋宏一書誌選集』(金沢文圃閣) などがある。



(左) アルド印刷所があったとされる建物。ラテン語のブランク (案内板) が掲げられている。(上) ブランクには「学識者として知らぬ者なきマヌキア族はこの地で印刷術により卓越していた」とある。(いずれも筆者撮影)

参考文献：

柳沼正広「エラスムス『格言集』から「ゆっくりと急げ」翻訳と解題」『創価大学人文論集』22号、2010、p. 217-245

雪嶋宏一「わが国におけるアルド版の調査研究」『早稲田大学図書館紀要』54号、2007、p. 1-54

雪嶋宏一『アルド・マヌーツィオとルネサンス文芸復興』東京製本倶楽部会報編集部、2014

ラウラ・レプリ著、柱本元彦訳『書物の夢、印刷の旅：ルネサンス期出版文化の富と虚栄』青土社、2014

Lowry, Martin, *The world of Aldus Manutius: business and scholarship in Renaissance Venice*, Oxford: Basil Blackwell, 1979.

本を購入する時って、つい状態の良いきれいな本を選んでしまいませんか。でも、古本、特に何百年も前の洋古書ならどうでしょう。表紙が取れかかっている、書き込みだらけの本は価値がないのでしょうか。もちろん、そんなことはありません。古い製本の形跡が残っているかもしれませんが、書き込みを解読すれば誰が所有していたかわかるかもしれません。

このたび新たに貴重書に指定された洋古書2点は、16世紀のヴェネツィアで刊行された本です。国立国会図書館所蔵となるまで500年近く様々な場所を旅してきたこととなります。その来歴を解き明かしたいのは山々ですが、残念ながら本コーナーでは手に余りますので、今回は当館に入ってくる直前の平成27年度に、当時永田町に勤務していた筆者が入手に携わった部分のみ、お話ししましょう。

この年はアルド・マヌーツィオが亡くなってちょうど500年だったこともあり、古書店のカタログにはアルドや息子のパオロが出版したアルド版がかなり掲載されていました。もちろんカタログの解説だけで購入を決めちゃうわけにはいきませんので、古書店に現物を確認しに行きまし

た。『アッティクス宛キケロ書簡集の注釈』はカタログによるとあまり状態が良くないとのことだったのですが、たしかに背の部分が破損しています。あれっ、写本の切れ端のようなものがつけられているのが確認できます。機械の模型をスケルトンで作ることがありますが、破損している分、製本の内側が見えるのは、怪我の功名というか破損の功名です。不要な紙を製本に使ったのでしょ

うか、だとしたらこの紙から来歴の一部がわかるかもしれません。でも、まずは、破損している資料の購入を検討してよいかを資料保存担当職員にも確認してもらったほうが良さそうです。そこで、古書店に2点の資料を当館まで持ってきてもらいました。特に破損している資料については当面どのように保管するかを決めた上で、やっと購入希望資料とすることができました。

この後、更なる来歴調査が進めば、ヴェネツィアから永田町までの500年に及ぶ旅の詳細が明らかになるかもしれません。どうです、書き込みや破損のある本もおもしろいでしょう？ といっても、私も自分が買う本はやっぱりきれいな本を選んでしまいう気がしますが…。(関西館総務課 三年帰太郎)

書き込み、破損、歓迎します。



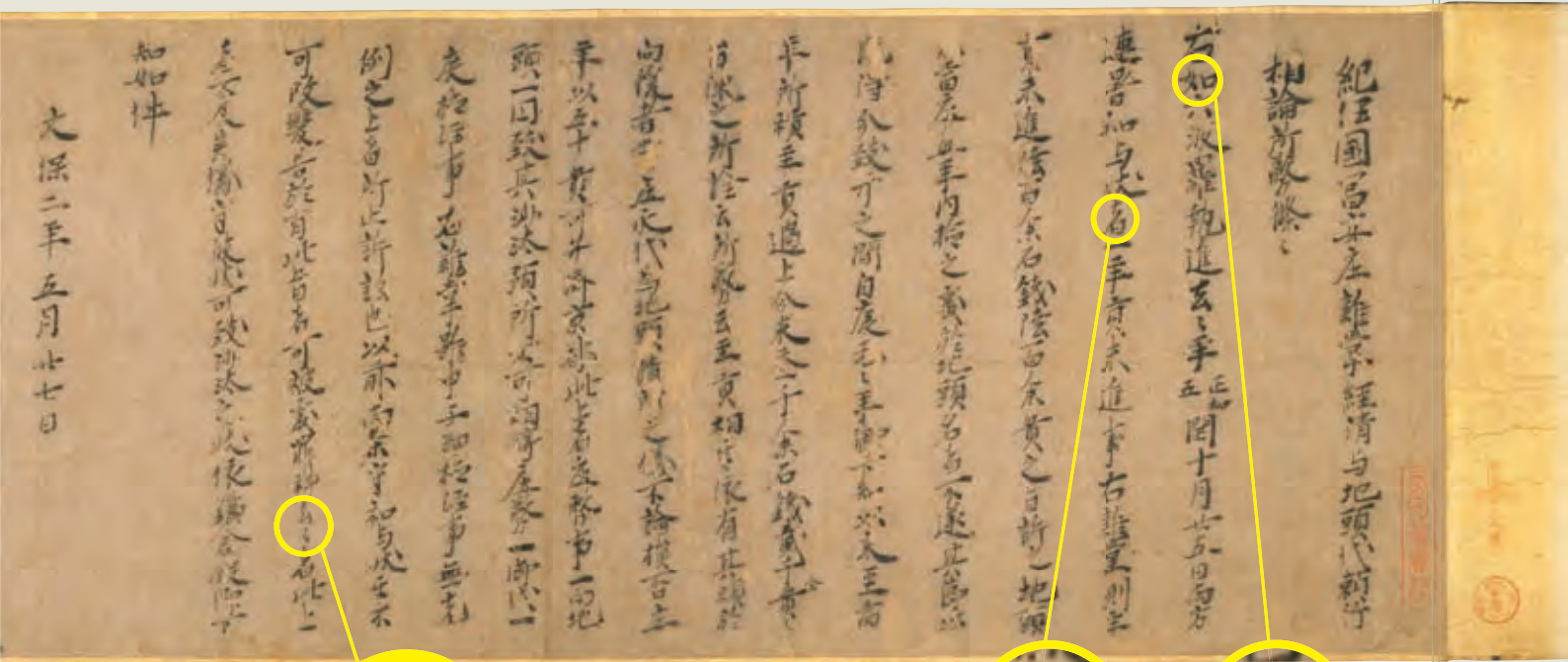


文書の中の文書？

きのした りょうま
木下 竜馬

じじつがき
事実書

ことがき
事書



云々



者



如

前回から引き続き、鎌倉幕府の判決書（裁許状）である文保二年（一一三八）五月二七日付関東下知状（以下、本文書）を読み解いていきます。

事書から、これは紀伊国富安荘という荘園の雑掌（京都の荘園領主の代官）・経清と、その荘園の地頭代（地頭の代官）・頼行とのあいだの裁判だとわかります。以下、前者を荘園領主側、後者を地頭側と呼ぶことにします。

本文書の事実書（本文）はたいへん長く見えますが、これは本文に別の文書が引用されているためです。このような文書の場合、「如」者「B」云々「A」のごとくくんば「B」云々」と読み下す」という文言がよく使われます。Aには文書の名などが入り、BにはAの内容が引用されます。

本文書の事実書の冒頭を見ると、「如六波羅執進去々年正和閏十月廿五日兩

「資料の世界の歩き方」は、国立国会図書館（NDL）の所蔵する資料のうち、少し難しそうな資料を取り上げて、その「よみかた」に触れる連載です。





文保2年(1318)5月27日付関東下知状
 (国立国会図書館所蔵「鎌倉殿下知状」)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1288412/4>

文書の翻刻と構造
 (適宜改行しています)



1 紀伊国富安庄雑掌経清与地頭代頼行相論所務条々

2 右、如六波羅執進去々年五正和 閏十月廿五日両方連署和与状者、

3 一、年貢未進事、

右、雑掌則年貢未進陸百余石・錢陸百余貫之旨訴之、地頭□(代カ)当庄毎年内檢之処、於地頭名者、不遂其節、以既得分致弁之間、自康元々年御下知以来至当年、所積年貢過上分米參千余石・錢貳千余貫之旨陳之、所詮、云所務、云年貢、相互依有其煩、於向後者、当庄永代為地頭請所之儀、不論損否、每年以五十貫、可弁濟京都、此上者、庄務事、一向地頭一円致其沙汰、預所不可相綺庄務、

一、御代一度檢注事、

右、雑掌雖申子細、檢注事、無先例之上者、所止訴訟也、

以前兩条、守和与状、互不可改變、若於背此旨者、可被処罪科云々者、**4** 此上者、不及異儀、守彼状、可致沙汰之状、

5 依鎌倉殿仰、下知如件、

6 文保二年五月廿七日

相模守平朝臣(花押)
 武蔵守平朝臣(花押)

- 1: 事書*
 - 2: 事実書(本文)
 - 3: 引用された和与状
 - 4: 幕府の判断
 - 5: 書き止め文言*
 - 6: 年月日・署名・花押*
- (* 前回参照)

方連署和与状者」となっています。「六波羅執進去々年五正和 閏十月廿五日両方連署和与状」というのは、「六波羅探題(京都の幕府出先機関)が送ってきた一昨年の正和五年(二三一六)閏一〇月二五日付けの、原告・被告がともに署名した和与状」の意味です。和与状の意味はあとで解説するとして、この和与状の引用はどこまで続くのでしょうか。引用の終わりを示す「云々」は、後ろから三行目の下の方によりやく出てきます。つまり、本文書は、ほとんどが一通の和与状の引用で占められているのです。

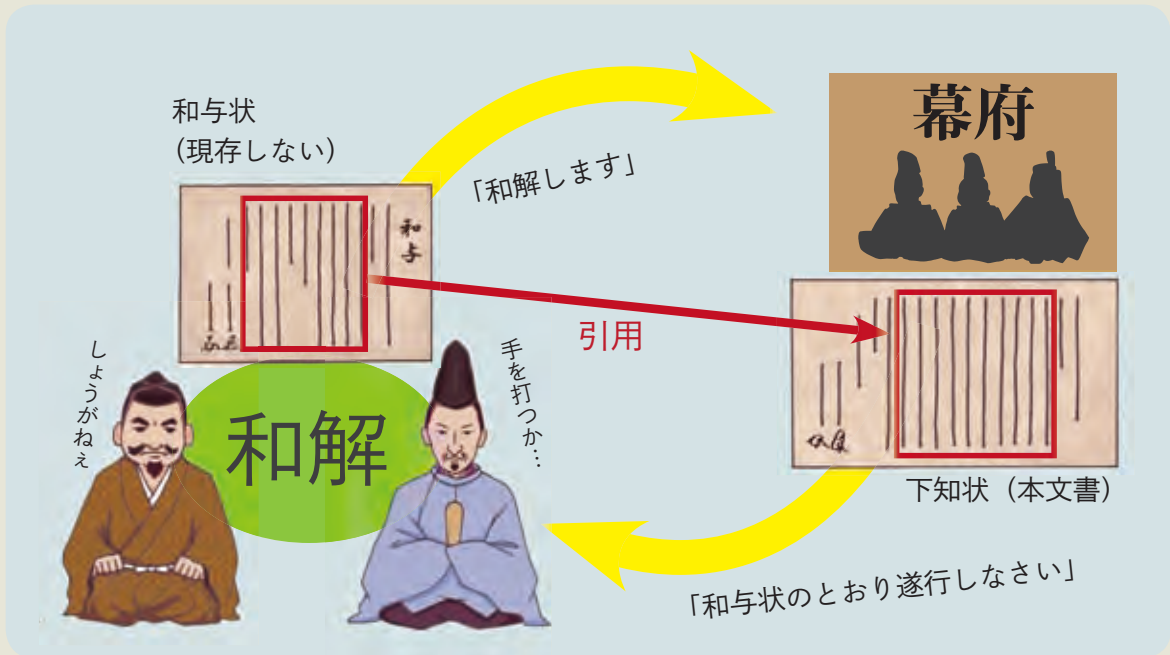
本文書の構造を上にあげておきましょう。上図**3**として引用された和与状は、文書の中にある文書といえます。実のところ、幕府の判断は、**4**「このうえは、異儀に及ばず、彼の状を守り、沙汰を致すべし。」(「ということ、互いに約束を破ることなく、この和与状の内容を遂行しなさい」の意)という部分しかないのです。

さて、肝心の「和与状」とはなにかを説明しましょう。和与とは、和解のことを指します。訴訟を争っている両

Column

和与の内容からみえる荘園支配

荘園領主側は、地頭側による富安荘の年貢未納を非難していましたが、どうやら荘園支配の細かい管轄（それにより年貢額も左右される）について相互の認識に食い違いがあったようです。この和与によって、この荘園の事務をすべて地頭側に委ね、年ごとの収穫高によらず、銭建ての定額（銭50貫文）を京都の荘園領主が得ることで決着しました。荘園の支配を地頭が一任される（地頭請）のは地頭の勢力拡大という潮流を、年貢をすべて銭納に一括する（代銭納）のは貨幣経済の進展という情勢を、それぞれ示しています。



(絵・正保五月)

当事者が、なんらかの妥協に達したとき、和解のあかしとして作るのが和与状です。幕府の法廷で争っていた富安荘の荘園領主側と地頭側は、和解して訴えを取り下げることにしたのでした。本文書の引用を見る限り、一つ書きをふたつ並べて合意事項を記し、最後に「以前の両条、和与状を守り、互いに改変すべからず。もしこの旨に背くにおいては、罪科に処せらるべし」(3)の最終行に引用)と、この内容を守ることを約しています。この後に双方が署名したのでしよう。ただ、双方が合意しただけの和与状は、そのままでは実効性に裏付けを欠きますので、幕府に提出して、本文書のような判決書を得ることで、法的な効力を持たせたのでした。



第一回、そして前回今回と、武家の文書を続けて取り上げてきました。次回は、公家の文書を取り上げます。

本屋に

ない

本



ハワイ報知百年史

鈴木啓 編 ハワイ報知社 刊
2013.2 150, 41p 26cm
<請求記号 DH22-L66>

いたるところでそのコミュニティを反映した新聞が発行され、時には新聞自身が主体的にコミュニティの性質を形作っていった。本書は一つのコミュニティとそこで発行された新聞の百年にわたる足跡の記録である。

明治期以降、世界各地に日系人移民のコミュニティが誕生した。その中でもっとも大きなものの一つが、ハワイにおける日系人社会である。1912（大正元）年に創刊された『布哇報知』（のちの『ハワイ報知』）はホノルルの日本語新聞であり、現在まで継続して発行されている。

ハワイで様々な日本語の新聞が発行される中で、あるものは明示的に廃刊され、あるものは気が付いた時には発

行されなくなっていた。そして、日米開戦時にすべての新聞が一度発行禁止となる。戦時中、再刊を許可されたハワイ報知は検閲を受けつつも、日本語しか理解できない日系人のために発行をつづけた。その後、日系移民も2世3世と時代が下り、日本語で発行される新聞への需要が減少していつても、記事の色合いを変えながら発行を続け、ついに百年に至ったこの新聞の価値は大きい。『ハワイ報知百年史』はそのハワイ報知と日系人社会の歩みを伝えてくれる貴重な資料である。

移住当初、日系人の労働条件などが劣悪だったことから、発刊の辞で「強者を挫き、弱者を救ふ所謂労働者の援助者なり」と新聞の立場を表明してい

る。日本語学校に関する規制を強める法案が提出され日系人社会の対応が割れた時には、社運を賭けて法案が憲法違反であるという立場を先導し、勝訴を勝ち取った。日米開戦により日系人が難しい立場に立たされると、ハワイ報知は「之ぞ我らの戦ひ」と題する社説を即座に掲載し、米国へ忠誠を誓う立場を主張している。

戦後、日系住民がハワイの政界やビジネス界に大きく進出した後には「もはや日本語新聞が権益を擁護する時代ではなくなった」として、映画や学術といった文化プロジェクトにも力をいれるようになった。このようにコミュニティと共に歩み、時に輿論を形成してきた歴史が、この一冊で概観できる。

本書は「ハワイで日本語を使用する日本人社会が存在する限り、日本語でニュースを伝え、日本文化を次代へ受け継いで行く日本語新聞の根本的な役割は終わらないだろう」と締めくくられる。新聞の題字や判型、果ては形態が変わることはあっても新聞の本質は変わらないと、百年の歴史を繙いた後には思われる。

国立国会図書館新聞資料室では『ハワイ報知』を初号から所蔵している（請求記号YB1468（1912年～1961年マイクروفイルム）、Z9812（1961年以降））。歴史を知った上で紙面に触れば、今までとは異なる見え方としてこよう。

（田幡琢磨）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。



世界図書館紀行

デンマーク王立図書館

やすまつ 安松 ほ 沙保

北欧デンマークの首都コペンハーゲンには、チポリ公園、人魚姫の像、運河沿いにカラフルな家が並ぶニューハウン、などなど、魅力的な場所がたくさんあります。そんなコペンハーゲンで、人気観光スポットのひとつとなっているのが、デンマーク王立図書館です。筆者は、コペンハーゲンで行われる会議に合わせ、図書館で扱う様々なデータの利用について聞き取り調査を行うために2016年10月に訪問しました。

歴史が薫る港町、コペンハーゲン

コペンハーゲンは、シエラン島の東海岸に位置しており、国際空港から市内中心部まではデンマーク国鉄に乗って約15分の距離にあります。中央駅に近づくにつれ、車窓から見える景色はだんだん建物が増えて都市らしいものになっていきます。筆者が到着したのは午後5時ごろ。雲が多く空気もひんやりしており、北欧の秋らしいお天気でした。

「商人の港」というデンマーク語

にちなんで名付けられたこの街の中心部には港口から続く運河が流れており、市民の足である黄色い水上バスが行き交っています。海の方を見渡すと沖合を通る貨物船もたくさん目に見ることができます。

また、陸地に目を向けると、古い街並みがよく保存されていることが分かります。石造りやカラフルな木造の建物の中に時折顔を覗かせる赤レンガの建物は、17世紀に建てられたものだそうです。20世紀初頭に完成したコペンハーゲン市庁舎の塔よ

see also...

「ダブリンコアとメタデータの応用に関する国際会議 (DC-2016)」『カレントアウェアネス -E』(E1868)
<http://current.ndl.go.jp/e1868>

アンデルセンゆかりの地

チボリ公園は19世紀に市民のための娯楽施設として造られた遊園地で、コペンハーゲン中央駅の目の前にあります。アンデルセンはしばしばチボリ公園に足を運んで童話の構想を練ったと言われており、道路を挟んで公園の向かいにあるアンデルセンの銅像は、チボリ公園の方を見上げる格好をしています。筆者が訪れた10月はハロウィン期間で、園内はかぼちゃや蜘蛛のぬいぐるみなど、ハロウィンの飾りでいっぱいでした。ちなみにこの時期はちょうど、デンマークの学校の「じゃがいも休み」と呼ばれる秋休みの時期でもあったようで、園内では小学生ぐらいの子どもたちが元気いっぱい遊んでいました。



(左上) ハロウィン期間のチボリ公園 (左) チボリ公園を見上げるアンデルセン像 (上) 人魚姫の像

アンデルセンの童話『人魚姫』の像はコペンハーゲンの北東部にあります。思ったより小さいともっぱらの評判(?)ですが、コペンハーゲンを訪れた観光客が一度は詣でる観光地です。地元の方も驚くほどの強風の日に、さらに風が強い海沿いにある像を見に行ってしまった筆者は、カメラが風に吹き飛ばされるのではないかと真剣に心配しながらかわいらしくも憂いのある人魚姫を写真に収めるという貴重な経験をしました。



アンデルセンが住んでいたこともあるニューハウン地区。色とりどりの外壁が運河を彩ります

りも高い建物を建ててはいけな
い、という条例によって高層ビルが
無いことも、街の雰囲気落ち着い
たものにしていきます。
コペンハーゲンの歴史は、12世
紀半ば、スロツツホルメン地区に
城塞が建設されたところから始ま
ります。この地区にはその後、国
王の居城が建てられ、現在では国
会議事堂

や内閣府、最高裁判所、王室の
迎賓館等があり、デンマークの
中枢とも言える場所です。
今回の主役、デンマーク王立図
書館も、このスロツツホルメン
地区の一角を占めています。



(撮影：藤田えみ)



旧館（左）と新館「ブラックダイヤモンド」（右）

デンマーク王立図書館の基本情報

所在地：Søren Kierkegaards Plads 1, Copenhagen

所蔵資料点数：

図書や雑誌等の物理的媒体の資料は約 3,500 万点。

デジタル資料は約 150 万点。

通常の開館時間：

平日は午前 8 時～午後 9 時、土曜日は午前 9 時～午後 7 時。

日曜日・祝日は休館日。

年間の来館者数：約 125 万人

※ 2015 年時点の情報。

2つの役割・新旧が融合する 王立図書館

王立図書館は、17世紀にデンマーク国王フレデリク3世によって創設され、20世紀初頭に現在のスロツホルメン地区に移転しました。1989年には人文・社会科学系のコペンハーゲン大学図書館と統合し、王立図書館は国立図書館でありながら、大学図書館としての役割も果たしています。

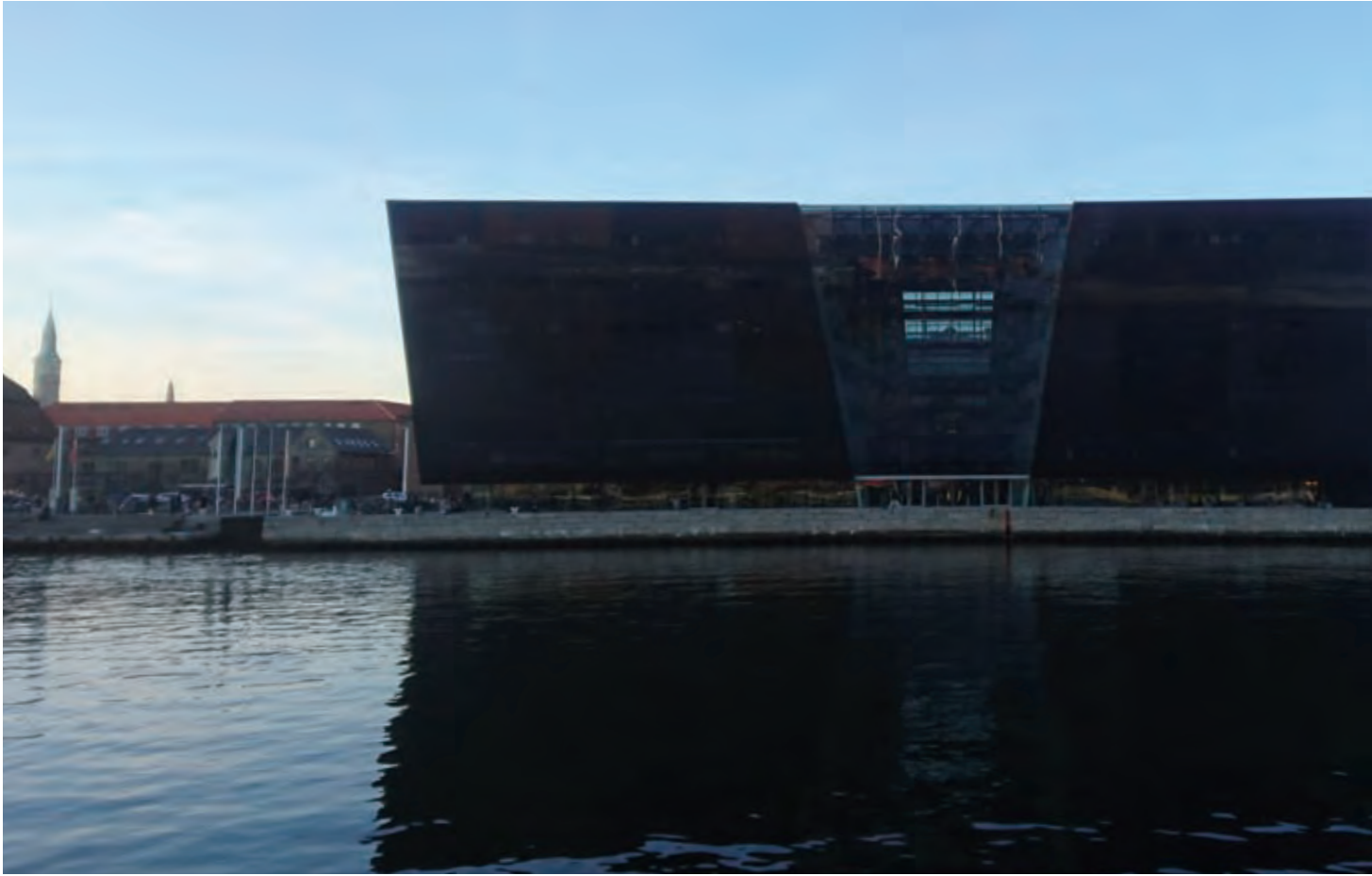
デンマークの納本図書館の1つである王立図書館は、デンマーク国内の出版物、ウェブサイト等のインターネット資料、ラジオ番組やテレビ番組、映画を収集しています。前述のような統合の経緯もあり、王立図書館では人文・社会科学系の資料が主なコレクションとなっています。建物は大きく分けて、1906年に建てられた旧館と、1999年に建てられた新館の2つの部分から構成されます。赤レンガ造りでクラシカルな旧館とは対照的に、新館は、花崗岩とガラスで覆われた、四角く黒光りする近代的な建物で、ブラッ

クダイヤモンドの愛称で呼ばれます。

ブラックダイヤモンド

館内を案内してくださったのは、聞き取り調査も対応していただいた図書館システムコンサルタントのクヌート・アントン・ベックマンさんです。調査を終えて職員用の食堂（おしゃれなビュッフェ形式！）で腹ごしらえをした後、事務エリアを通りながらの館内見学に出発しました。着任直後であったにも関わらず、同じく快く調査に対応してくださった、クヌートさんの同僚ムラト・セイハンさんも、良い機会ということでご一緒しました。

ブラックダイヤモンドは地下1階、地上7階建てで、閲覧室や書庫だけでなく、展示室や、コンサートや講演会が行われるホールが備え付けられています。筆者が訪れた際には、村上春樹の講演会をお知らせするポスターが貼られていました。建物内部の床は板張り、運河に面するガラスに覆われた、7階まで吹き抜けのアトリウムには日光がた



運河の対岸から望むブラックダイヤモンド



上層階から見下ろしたアトリウム。両側には閲覧室が広がっています

くさん差し込んでいきます。運河に向かって開かれたようにアトリウムを配置しているのは、利用者がどこにいても波や日の移ろいを感じる事ができるようにする、というねらいがあるのだそうです。上層階から見下ろしてみると、日光や、それが運河に反射した光が建物の中に入り込んで微妙な変化を投げかけているの

が分かります。左右からせり出しているバルコニーが波型になっているのは、人間の身体や、精神の世界をイメージしているそうです。また、机などの調度品もブラックダイヤモンドのために特注で用意したものだそうです、統一感が感じられました。

直線的で硬質な印象を受ける外観



3階の閲覧室



運河に面した1階のカフェ



連絡通路に設けられた席



旧館の北閲覧室。閲覧机のかわいい緑色のランプが目をはきます

を持つブラックダイヤモンドですが、内部はこのように、明るく柔らかなで、居心地の良い空間になっています。この意外性が、ブラックダイヤモンドが多くの人を惹きつける理由のひとつになっているのかもしれない。

1階はカフェや売店があり、観光客がひっきりなしに訪れる活気あるエリアです。運河を望むカフェで行き交う船を見ながら一休みしたり、アトリウムを見上げて写真を撮ったりする観光客の姿も多く見受けられました。

2階の展示室では、「王立図書館の宝物」という企画展が開催されました。デンマーク出身の童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの日記や哲学者セーレン・キルケゴールの手紙など、王立図書館が所蔵している貴重な資料を見ることができました。展示室は円形になっていて、タッチパネルで解説を見たり、棚のような展示ケースの中にある資料を引き出して鑑賞したりと、楽しい仕掛けがあるお部屋でした。

3階から7階にかけては、計5つ、

約450席を備える閲覧室があります。3階の東閲覧室には新聞や雑誌が排架されています。西閲覧室は参考図書が排架され、研究用となっています。両閲覧室はアトリウムを挟む形で広がっており、アトリウム側の壁がガラス張りなのも印象的です。日の光が届くバルコニーの近くに閲覧席が、その背後に書架が設けられています。その他の階の閲覧室は、書物史や地図、音楽、演劇、東洋学といった分野の専門室となっているそうです。入室するための登録が必要な閲覧室もあり、3階より上は観光客が少ない比較的静かなエリアとなっています。

連絡通路から旧館へ

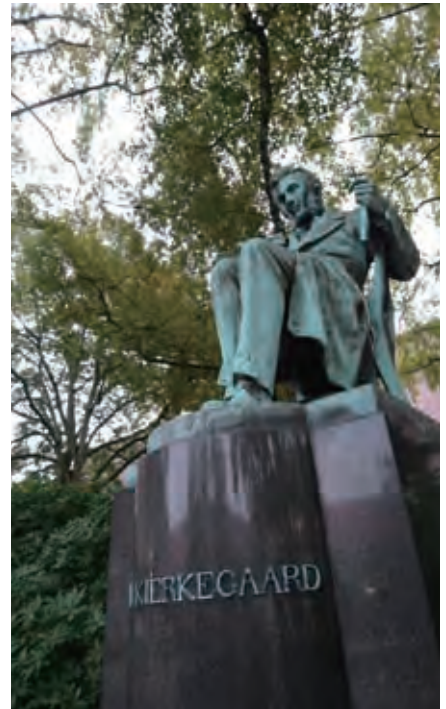
3階は、ブラックダイヤモンドと旧館が連絡している階でもありません。連絡通路には資料の貸出しも行うインフォメーションカウンターや、グループ学習ができる席が設けられています。連絡通路の席は人気の勉強スポットだそうで、筆者が訪れた際にもほぼ満席で、学生が熱心に勉強していました。連絡通路の片

スモークロー × 寿司 = ??

デンマーク料理で有名なのが、バターを塗った黒パンの上に、レバーペーストやスモークサーモンなどを乗せたオープンサンドイッチ、スモークローです。最近デンマークでは、このスモークローと寿司を融合させた、スムーシという料理が人気なのだそうです。種類も様々あって見た目にも美しい料理で、パンをシャリに見立てて、ネタ(スモークサーモンや肉)がぎゅっと詰まった形は、確かに寿司っぽさを感じられる…? ような気がしました。



庭園と国立公文書館



庭園のキルケゴール像

隅には、古い本がぎゅっと詰まっている本棚がありました。クヌートさんによるとこれらの本は、王立図書館の昔の蔵書目録だということですが。今は、蔵書目録はデータベースで管理され、インターネット上で検索することもできるのですが、こちらを参照している利用者もたまにいらっしゃる。ムラトさんと一緒に、いつい、興味津々で目録を覗きこんでしまいました。

旧館にある北閲覧室は、約1000席を備えるコペンハーゲン大学の学生専用の閲覧室で、入口の扉にもその旨書かれています。今回は特別に、事務エリアからつながっている上方の回廊から見学させていただきました。閲覧室の中は建物の外観と同様、昔ながらの内装が保存されており、見学の際には、おしゃべりはもちろん、あまり物音を立てないように注意してくださいね、とクヌートさんをお願いされるほどの、静かな空間でした。

旧館は「図書館の庭」と呼ばれる庭園に面しており、花壇や、泉で泳ぐ水鳥を、キルケゴールの像が見

守っている憩いの場です。庭園を挟んだ反対側には、国会議事堂が置かれているクリスチャンボー城や国立公文書館があります。

おわりに

コペンハーゲンは、歴史的建造物や街並みを保存しようとするなど、昔のものを大事にする一方で、地元の方が観光客を受け入れて気さくに接してくれる、開かれた明るい街でした。

古い面影を色濃く残す旧館に、海に続く運河に開かれた内装も併せ持つ近代的なブラックダイヤモンドが接続する王立図書館は、コペンハーゲンを象徴しているかのようです。コペンハーゲンにいらっしやる際にはぜひ、王立図書館に立ち寄って、コペンハーゲンの雰囲気的一端を感じ取ってみてはいかがでしょうか。

今回の訪問では、クヌートさんやムラトさんをはじめ、王立図書館の職員の方々に大変お世話になりました。ご多忙のなかご対応いただいたことを、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

NDL Topics

本の万華鏡「あれもこれも和菓子」

6月16日から、ミニ電子展示「本の万華鏡」第25回「あれもこれも和菓子」の提供を開始しました。

今日「和菓子」というと、茶席などで供される菓子や饅頭等をイメージされる方が多いのではないのでしょうか。しかし、このような菓子が普及したのは、意外に最近のことです。「菓子」は元来果物や木の実を意味していましたが、中国やヨーロッパの食文化の影響を受けつつ、江戸時代までに現代の和菓子に通ずるものが作られるようになりました。和菓子の成り立ちや社会風俗との関わり、和菓子を題材にした文芸作品など、多彩な和菓子の世界を、当館所蔵資料を通して是非ご堪能ください。



<http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/25/>



『第十回全国菓子大博覧会誌』(昭和10年)



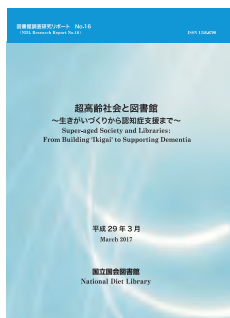
『近世商賈尽狂歌合』より、パフォーマンスしながら飴を売る唐人飴売り

図書館調査研究リポートNo.16

『超高齢社会と図書館く生きがいづくりから認知症支援まで』を刊行しました

平成28年度に実施した図書館及び図書館情報学に関する調査研究の成果をまとめ、平成29年3月に、標記リポートを刊行しました。ホームページで全文をご覧になれます。

この調査研究では、調査対象機関を3機関設定し、文献調査、現地調査などの事例調査を行いました。また、この3機関のうち2機関について、サービス提供地域に居住する高齢者にインタビュー調査を行いました。このリポートでは、事例調査の3機関が提供しているサービスの概要や、サービスを実施するに至った経緯などを紹介しています。また、高齢者へのインタビュー調査の結果を踏まえ、高齢者の図書館利用の現状と今後のサービスのあり方について、6つの観点から考察しています。そのほか、日本の図書館サービスにおける高齢者の位置付けの変遷や、超高齢社会における図書館サービスの実態・課題など、超高齢社会と図書館についての論考を掲載しています。



<http://current.ndl.go.jp/report/no16>

問い合わせ先
 国立国会図書館 関西館 図書館協力課
 調査情報係
 電子メール chojo@ndl.go.jp

関西館小展示（第22回）「明かりをつくる、光をいかにす ―照明から建築・アートまで―」

第22回の関西館小展示では、照明の歴史を中心に、光と生活・文化に関する約100点の本や雑誌をご紹介します。

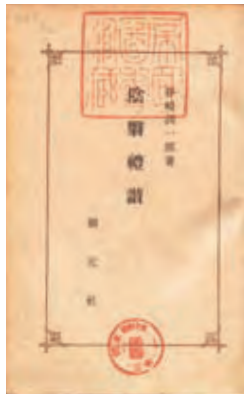
松明や蝋燭・灯油を用いた灯火具から、白熱電球、蛍光灯、LED照明まで、照明技術の進歩は、人々の生活や街並みに快適性や豊かさをもたらし、時には文化や価値観にも影響を与えてきました。近年では各地で建物や街路のライトアップなどがなされ、暮らしを彩っています。本展示では、こうした照明器具の発展史、およびそれに伴う暮らしや景観等の変化を概観します。また、影絵や光と影を描く絵画など、明かりや光を取り入れた多様な文化や、人工照明だけではなく自然光を活かした建築も取り上げます。明かりと光についてさまざまな切り口で選んだ本や雑誌をお楽しみください。



第21回関西館小展示「梅尽くし」の様子



照明学会照明智識普及委員会 編集
『京都・大阪・神戸明りの名所』照
明学会照明智識普及委員会関西委員
会、昭和8
<請求記号 特253-930>



谷崎潤一郎『陰翳礼讃』創元社、昭14
<請求記号 787-35>



柳田国男『火の昔』実業之日本社、昭19
<請求記号 380-Y53ウ>

- 開催期間 8月17日（木）～9月19日（火）
（日曜日、国民の祝日を除く）
- 開催時間 9時30分～18時
- 場所 関西館 閲覧室（地下1階）

NDL・OPACがリニューアルします

国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）は、平成29年12月をもってサービスを終了し、平成30年1月から新しい検索・申込システムに切り替わります。

新しいシステムや、切替えに伴うサービス変更の詳細については、ホームページ等で順次お知らせします。

国立国会図書館資料デジタル化の手引 2017年版を掲載しました

「国立国会図書館資料デジタル化の手引」は、国立国会図書館の所蔵資料を画像としてデジタル化する場合において、仕様の共通化や技術の共有を図り、もって標準化によるデータ品質の確保及びデジタル化作業の効率化に資することを目的として作成したものです。

2017年版では、2011年版の内容を引き継ぎつつ、その後のデジタル化作業の実績及び国内外の技術の変化を踏まえて内容を一部更新しました。

ホームページの「国立国会図書館について」資料デジタル化について、国立国会図書館資料デジタル化の手引からPDF版をご利用いただけます。

国際子ども図書館展示会

「世界をつなぐ子どもの本―2016年国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト図書展」

国際子ども図書館では、8月1日(火)から8月20日(日)まで、標記展示会を開催します。

この展示会では、2016年の国際アンデルセン賞受賞者のこれまでの諸作品、IBBY(国際児童図書評議会)オナーリスト(優良作品)の推薦作品とその邦訳書、あわせて約200冊を手にとってご覧いただけます。

○開催期間 8月1日(火)～8月20日(日)

※8月7日(月)、11日(金)、14日(月)、16日(水)は休館
○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム

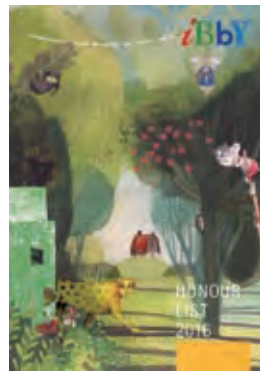
国際アンデルセン賞は子どもの本の「小さなノーベル賞」とも言われ、2年に一度、児童文学の分野で卓越した業績をあげた現存の作家と画家に贈られています。2016年は曹文軒さん(中国)が作家賞を、ローラウト・ズザンネ・ベルナーさん(ドイツ)が画家賞を受賞しました。

IBBYオナーリストは、IBBYの各国支部が、自国で出版された児童書の中から、外国に紹介したい作品を選び、隔年で作成する推薦図書リストです。「文学作品」「イラストレーション作品」「翻訳作品」の3部門からなり、2016年は世界の国と地域から173作品が選ばれました。日本からは、文学作品部門に岩瀬成子さんの『あたらしい子がきて』、イラストレーション部門に吉田尚令さんの『希望の牧場』、

翻訳作品部門に原田勝さん訳の『ハーレムの闘う本屋』、ルイス・ミシヨアの生涯』が選ばれています。

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館資料情報課 展示係
電話 03(3827)2053(代表)



『IBBY Honour List 2016』
©International Board for Books for Young People (IBBY), 2016

国際子ども図書館夏休みイベント

「科学あそび2017」

国際子ども図書館では、科学と科学の本に対する子どもたちの興味を引き出すイベントを開催します。

内容の詳細および申込方法については、国際子ども図書館ホームページの「展示会・イベント」イベント情報▼これからのイベント」をご確認ください。

○日時 8月23日(水) 14時～16時

○内容 グラスハープ(ガラスを指で擦って音を出す楽器)を使って音が鳴る仕組みを解説します。

○会場 国際子ども図書館 アーチ棟1階研修室2

○講師 佐々木 勝浩 氏(国立科学博物館名誉研究員)

佐々木 久子 氏

○対象 10歳(小学校5年生程度)～18歳

○定員 40名程度

○持ちもの グラス1個

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館児童サービス課
電話 03(3827)2053(代表)

平成29年度資料保存研修

国内の各種図書館員等を対象に、資料保存に関する基礎的な知識と技術の習得を目的として、資料保存研修を実施します。

○会場・日時

東京本館 新館3階大会議室 9月28日(木)、29日(金)

関西館 第3研修室 9月8日(金)

各日9時30分～16時30分(各日とも同じ内容です。)

○対象 国内の公共図書館、大学図書館、専門図書館等に勤務する方

○内容 講義：図書館資料の保存

実演：簡易帙を作る

実習：①簡易補修、②無線綴じ本を直す、

③外れた表紙を繋ぐ

○持ちもの えんぴつ、エフロン

○定員 東京本館56名(各日28名)、関西館16名

1機関からのお申込みは1名までとし、申込多数の場合は調整させていただきます。

○申込期間 7月3日(月)9時～19日(水)17時

○申込方法 当館ホームページの「図書館員の方へ」図書館員の研修▼平成29年度の研修▼平成29年度資料保存研修のご案内」からお申し込みください。

○問合せ先 国立国会図書館 収集書誌部 資料保存課

電話 03(3506)5219(直通)

電子メール hozonka@ndl.go.jp

NDL Topics

平成29年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会

公共図書館、学校図書館等の職員を主な対象とし、標記研修会を開催します。この研修会では、国立国会図書館が提供している全国書誌データをご利用いただくための具体的な方法と、レファレンス協同データベース事業の概要や事業に参加する利点をまとめて知ることができます。受講者のみなさまには、全国書誌データを用いた文献リスト作成や、レファレンス協同データベースへのデータ登録等を体験していただく予定です。

○東京本館会場

日時 7月28日(金) 13時～17時
会場 東京本館 新館3階大会議室
定員 30名
申込締切 7月21日(金)

○関西館会場

日時 8月18日(金) 13時～17時
会場 関西館 1階第1研修室
定員 30名
申込締切 8月11日(金・祝)

内容の詳細および申込方法は、レファレンス協同データベース (<http://crd.ndl.go.jp/>) のお知らせをご覧ください。

○問合せ先

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 協力ネットワーク係
電話 0774(98)1475
電子メール info-crtd@ndl.go.jp

新刊案内

レファレンス 796号

トランプ政権の外交・安全保障政策
ブラジルの連邦制と地方制度
シンガポールの安全保障政策
— その歴史及び直面する諸課題 —
青少年の情報環境とリスク
— 石川県・長野県における取組と論点 — (現地調査報告)
諸外国における上院議員の選出に係る較差 (資料)
南シナ海周辺国に対する中国の外交姿勢
— ベトナム・フィリピンとの関係 — (資料)



A4 104頁 月刊 1,000円(税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問合せ

日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812



#2 帝国図書館普通閲覧室
(現在の国際子ども図書館本のミュージアム)

平成28年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「震災から6年経過した震災アーカイブの進化と深化」を開催しました

東日本大震災から6年が経過して、多くの震災アーカイブが誕生し、震災の貴重な記録を保存しています。1月に開催した標記シンポジウムでは、各アーカイブの進化（深化）だけでなく、熊本県とインドネシアのアチェにおけるアーカイブ構築を目指した動きや、震災が産み出した瓦礫などを震災遺産と名付け、歴史資料化する「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の活動など、震災の記録を後世に伝える多様な動きが取り上げられました。

なかでも注目を集めたのが、利活用しやすい環境を効率よく整えるため、キーワード付与等を利用者自らが行う参加型アーカイブです。ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー研究所の「日本災害DIGITALアーカイブ」では、利用者登録をすることで、積極的にアーカイブの構築に参加できます。アーカイブに新たなウェブページを追加する機能のほか、アーカイブ内のコンテンツをまとめるコレクションや、コンテンツを活用して作成したプレゼンテーションを、他の利用者と共有する方法や実例が詳しく紹介されました。

パネルディスカッションでは、「利用者が参加して情報を加えることでコンテンツを豊かにしていき、10年後には、意識することなく必要なコンテンツが利用者の手元にやってくるような進化を目指していきたい」といった意見が出ました。そのほか、アーカイブの継続や、連携の課題や問題点が議論されました。

プログラム：

○特別講演

「参加型デジタルアーカイブの可能性」 アンドルー・ゴードン氏

○報告

「震災遺産を保全する」 高橋満氏（福島県立博物館主任学芸員）
 「福島原子力事故関連情報アーカイブ(FNAA)について」 米澤稔氏（日本原子力研究開発機構研究連携成果展開部科学技術情報課長）
 「ウェブサイトを保存するー国立国会図書館インターネット資料収集保存事業(WARP)」 前田直俊（国立国会図書館関西館電子図書館課課長補佐）
 「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」 伊東敦子（国立国会図書館電子情報部主任司書）
 「近年の震災アーカイブの問題点と解決方法について」 柴山明寛氏（東北大学災害科学国際研究所准教授）
 「熊本地震におけるデジタルアーカイブ構築への課題と利活用の検討」 山尾敏孝氏（熊本大学大学院先端科学研究部教授）

○特別報告

「アチェ津波デジタルアーカイブ（DATA）におけるウェブサービスについて」 ニザムディン氏（ジャクアラ大学講師）

○パネルディスカッション

「震災から6年経過した震災アーカイブの進化と深化」

日程：平成29年1月20日（金）

場所：東北大学災害科学国際研究所

主催：東北大学災害科学国際研究所、国立国会図書館



アンドルー・ゴードン氏
（ハーバード大学歴史学教授）



シンポジウムの詳細は、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）イベントページをご覧ください。動画とプレゼンテーション資料を公開しています。http://kn.ndl.go.jp/static/2016/11/22

「震災伝承活動を手助けするための震災記録の利用講習会」を開催しました

3月25日、せんだい3.11メモリアル交流館にて、仙台市七郷市民センターで被災時の経験を語る活動をしている語り部の方々に対象に、講習会を行いました（東北大学災害科学国際研究所「みちのく震録伝」主催）。語り部の方々が、震災を知らない世代や外国人に対して語る際に、「ひなぎく」等の震災アーカイブを活用し、写真や動画を使った案内をすることが目的です。

参加者からは「渦中にいた自分達には、混乱する中で何が実際に起こったのかわからない部分がある。事実確認できる写真が見たい。」「高速道路が防波堤となり津波を防いだと聞か、確認できる資料が見たい。」「多くの証言があるが、伝承していくには裏付けとなる写真や動画が大切だ。」といった、被災状況を客観的事実として確認できる資料を求める意見が寄せられました。被災地を訪れる人が、語り部から震災体験を耳で聞く際の手助けのひとつとして、「ひなぎく」を活用していただければ幸いです。



参加者には実際に操作を体験してもらいました。



宮城県図書館からは「東日本大震災アーカイブ宮城」の紹介がありました。

講習会の詳細は以下に掲載しています。
http://kn.ndl.go.jp/static/rikatuyou02

7 / 8

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
MULLETIN
2017.7/8

NO. 675 / 676
JULY / AUGUST 2017

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Kokkei dōke anmon: How to write a summer greeting card to a thunder god
- 04 52nd Committee on Designation of Rare Books
Materials recently designated as rare books
- 10 Aldo Manuzio and his successors
- 20 Browsing library materials—A look at documents from medieval Japan, Part 3
A document within a document?
- 24 Travel writing on world libraries: The Royal Library, Denmark
- 19 <Tidbits of information on NDL>
What we can learn from well worn books and documentation
- 23 <Books not commercially available>
Hawai hōchi hyakunenshi
- 30 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成 29 年 7/8 月号 (No.675/676)

平成 29 年 7 月 1 日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 秋山勉

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
http://www.ndl.go.jp/

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2017.7/8

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

冊

人

六

リサイクル適性[®]
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。